

児玉町文化財調査報告書 第20集

辻堂Ⅱ・南街道・宮田遺跡

県営ほ場整備事業児玉南部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4

埼玉県児玉町教育委員会

児玉町文化財調査報告書 第20集

つじどう みなみかいどう みやた
辻堂Ⅱ・南街道・宮田遺跡

県営ほ場整備事業児玉南部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4

1996

埼玉県児玉町教育委員会

序

児玉町の中心的な穀倉地帯である女堀川流域の低地に広がる水田地帯は、群馬県との県境をなす神流川によって形成された扇状地上に位置しています。この扇状地特有の地質的条件をもつ当地域では、山間部を流れてきた河川は平野部で伏水し、雨水は浸透して地下水となるため、平野部を流れる表流水は極めて少量であります。そのため、農業用水における水不足の問題は、当地域の古代から現代に至るまでの一貫した課題であり、この農業用水の安定供給に対する先人達の絶え間無い努力と葛藤の歴史が、現在の児玉町発展の一翼を担ってきたと言っても過言ではないでしょう。

近年当地域でも大規模なほ場整備事業が行われ、それに伴って灌排水路も整備され、各水田には用水からパイプラインが引かれて家庭の水道と同様の大変便利なものになり、農作業の機械化と省力化が図られています。しかしながら、この事業の実施に伴って多くの遺跡が現状変更を余儀なくされ、遺跡の破壊される箇所については、やむを得ず事前に発掘調査を実施して記録保存の措置をとってまいりました。また、この農業の合理化による個別経営の一層の進展は、これまで形骸化しながらも代々受け継がれてきた水利慣行や農耕行事などの伝統的な共同体慣行を崩壊させ、それらをかろうじて紐帯としながら、農村の面影を残していた村落形態の構造的変化に拍車をかけるものと思われます。このような危機的状況も推測される民俗学的な文化遺産についても十分注意し、ほ場整備事業に伴う大土木工事によって破壊される埋蔵文化財と同様に、記録に止めて後世に伝えていかなければなりません。我々が生活の便利さと引き換えに失って行く貴重な文化遺産について、今一度総合的に検討してみる必要があるでしょう。

今回報告する辻堂遺跡・南街道遺跡・宮田遺跡は、県営ほ場整備事業児玉南部地区の平成2年度工区と平成3年度工区の一部に伴い、児玉町教育委員会が発掘調査を実施したものです。現地の発掘調査から本書刊行に至るまで、埼玉県本庄土地改良事務所や地元関係者をはじめとする多くの方々や機関より、様々なご協力やご教示を賜りました。ここに改めて厚くお礼申し上げます。

平成8年3月1日

児玉町教育委員会
教育長 富丘文雄

例 言

1. 本書は、埼玉県児玉郡児玉町大字蛭川字辻堂に所在する辻堂遺跡(A・C・D地点)、同南街道に所在する南街道遺跡(A～D地点)、大字吉田林字宮田に所在する宮田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、県営は場整備事業(児玉南部地区)に伴う事前の記録保存を目的として、児玉町教育委員会が平成2年度と平成3年度の一部に実施したもので、その調査担当には恋河内昭彦が当たった。
3. 辻堂遺跡の遺構番号については、A～D地点で通し番号になっているため、本書で欠番のB地点の遺構については、別途報告の「辻堂遺跡Ⅰ」(恋河内1996)を参照していただきたい。
4. 本書刊行に要した経費は、国庫補助金・県費補助金・町費及び県費委託金である。
5. 本書中の地図は、位置図と第1図が国土地理院発行の5万分の1と2万5千分の1、第2図・第3図・第223図が児玉町役場発行の2千5百分の1、第4図と第91図が児玉町教育委員会作成の児玉条里現況測量図を基にしている。
6. 出土遺物観察表のアルファベットによる記号は、以下のとおりである。
A—法量、B—成形、C—調整、D—胎土、E—色調、F—残存度、
G—出土層位、H—備考
7. 本書に使用した写真は、遺構を恋河内が、遺物を小林節子と中里広子撮影した。
8. 本書の執筆及び編集は、恋河内が行った。
9. 発掘調査及び本書刊行にあたって、下記の方々や機関よりご助言・ご協力をいただいた。記して感謝いたします。

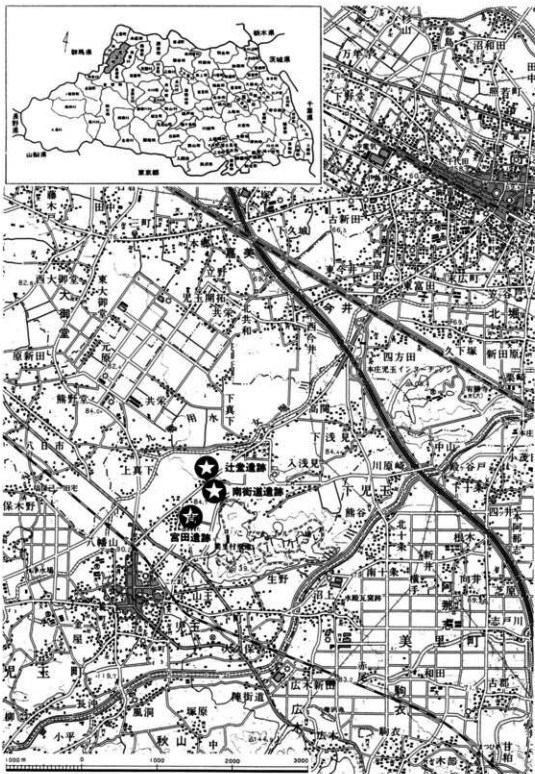
赤熊 浩一、浅野 一郎、浅野 晴樹、荒川 正夫、磯崎 一、
伊丹 徹、市川 修、出縄 康行、井上 尚明、井上 肇、
岩瀬 譲、岩田 明広、梅沢 太久夫、太田 博之、岡本 幸男、
金子 彰男、駒宮 史朗、昆 彭生、酒井 清治、坂本 和俊、
佐々木 幹雄、佐藤 好司、篠崎 潔、鈴木 敏昭、須田 英一、
外尾 常人、高橋 一夫、瀧瀬 芳之、田村 誠、富田 和夫、
中島 宏、中村 倉司、長瀬 歳康、坂野 和信、藤川 繁彦、
丸山 修、丸山 陽一、水村 孝行、増田 一裕、増田 逸朗、
矢内 勲、埼玉県教育局文化財保護課、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、
埼玉県本庄土地改良事務所、児玉南部土地改良区

目 次

序 言

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 辻堂遺跡（A・C・D地点）の発掘調査	3
第1節 遺跡の概要	3
第2節 検出された遺構と遺物	9
1. 住 居 跡	9
2. 円形周溝遺構	78
3. 土 塀	79
4. 溝 跡	84
第Ⅲ章 南街道遺跡の発掘調査	89
第1節 遺跡の概要	89
第2節 検出された遺構と遺物	95
3. 住 居 跡	202
2. 掘立柱建物跡	194
3. 井 戸 跡	202
4. 土 塀	203
5. 溝 跡	211
第Ⅳ章 宮田遺跡の発掘調査	219
第1節 遺跡の概要	219
第2節 検出された遺構と遺物	221
1. 住 居 跡	221
2. 掘立柱建物跡	223
3. 土 塀	224
4. 溝 跡	224
第Ⅴ章 ま と め —南街道遺跡の中世集落と条里の施工について—	227
参考文献	234

写真図版



遺跡位置図

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯

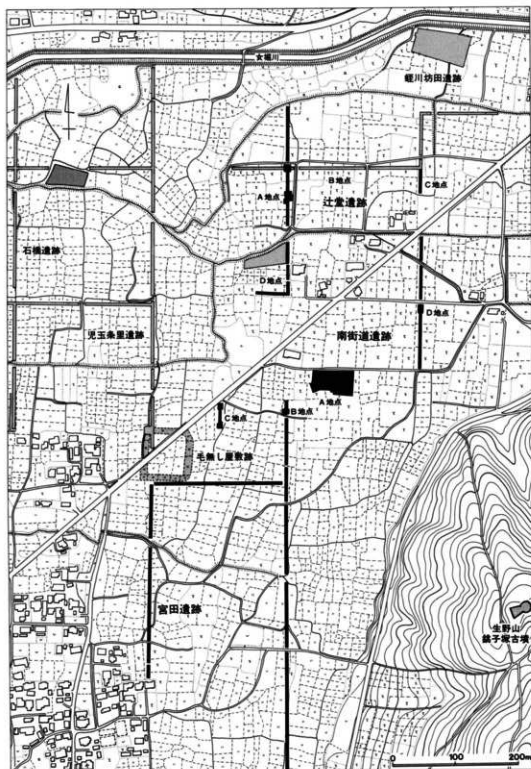
本報告の辻堂遺跡のA・C・D地点と南街道遺跡のA～C地点及び宮田遺跡は、県営は場整備事業児玉南部地区の平成2年度工区の工事に伴って、発掘調査を実施したものである。南街道遺跡のD地点については、平成3年度工区に伴って発掘調査を実施したものであるが、同一遺跡であるため、今回の報告に含めている。

平成2年度工区は、大字吉田林から蛭川にかけて位置し、南端の国道254号線から北端の女堀川までの南北約1400m、東西方向が約500mの南北方向に帯状に長い約40haを対象にしている。この工区内には、辻堂遺跡(No54-033遺跡)・南街道遺跡(No54-034遺跡)・児玉条里遺跡(No54-121遺跡)が所在しており、その取り扱いについて平成元年12月に県文化財保護課・県耕地課・本庄土地改良事務所・児玉町教育委員会による調整会議が行われ、現状変更により遺跡が破壊される部分については、発掘調査を実施して記録保存の措置をとることになった。

かくして、本庄土地改良事務所より平成2年6月11日付け本地第1218号による「埋蔵文化財発掘の通知」が、児玉町教育委員会より平成2年6月11日付け児教社第214-1号による「埋蔵文化財発掘調査の通知」がそれぞれ埼玉県教育委員会を経て文化庁長官に提出され、発掘調査にかかわる事業は平成2年7月16日から実施された。なお、文化庁からは平成3年4月3日付け委保記5-5697号による発掘調査通知の受理について児玉町教育委員会に通知があり、埼玉県教育委員会からは平成2年12月13日付け教文第3-238号による「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」の指示が本庄土地改良事務所に対して通知されている。



第1図 平成2年度工区位置図



第2図 発掘調査位置図

第Ⅱ章 辻堂遺跡(A・C・D地点)の発掘調査

第1節 遺跡の概要

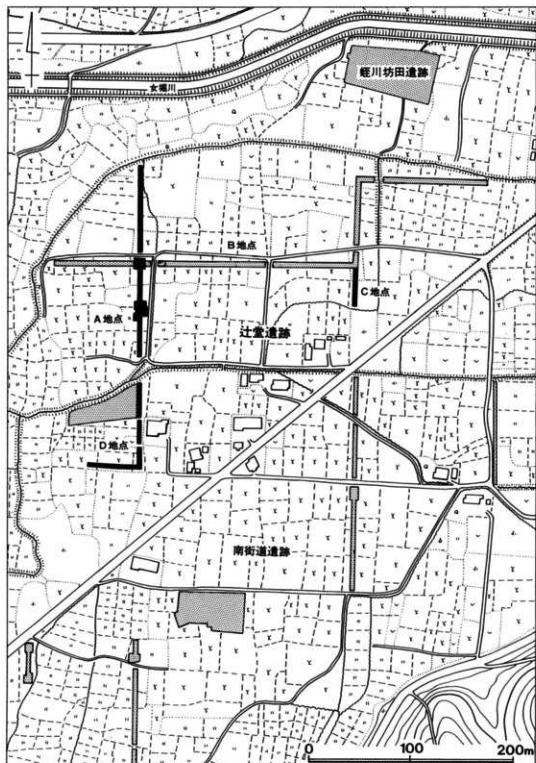
本遺跡は、女堀川中流域右岸の標高82mを測る比較的広く平坦で起伏のない微高地上に立地している。本遺跡の南側には、国道462号線を挟んで本書第Ⅲ章で報告する南街道遺跡が隣接しているが、両遺跡は地形的にも遺構の分布が連続する同一遺跡と考えられるもので、古墳時代中期前半から後期終末まで継続する女堀川中流域南部の中心的大規模集落として位置づけられる遺跡である。

本遺跡の発掘調査は、県営は場整備事業児玉南部地区平成2年度工区に伴う本報告のA・C・D地点と、県営水田農業確立排水対策特別事業やほり川地区に伴うB地点(恋河内1996)の4地点が実施されている(第3図)。この4地点は、いずれも幅数mの水路部分を対象とした小規模な調査であるため、調査区内で検出された遺構もその一部しか調査できなかったものがほとんどで、遺跡の具体的な様相については未だ明確になったとは言えない。

A・C・D地点で検出された遺構は、竪穴式住居跡40軒・円形周溝遺構1・土壌10基・溝跡11条である。これらの遺構は、大半が古墳時代中期～後期のもので、調査地点のほぼ全域から検出されているが、西側のA地点とD地点では遺構密度が高く、特にD地点では住居跡の重複が著しい。なお、A地点北側の現水田部については、すでに瓦粘土の採掘により破壊されていたため不明である。

中期(5世紀)の遺構は、重複関係による推定も含めて住居跡15軒と土壌4基がある。これらの時期は、中期後半(5世紀後半)が主体であるが、第3号住居跡・第51号住居跡・第57号住居跡や第2号土壌・第3号土壌のように、前半～中頃に溯る可能性があるものもある。住居跡は、住居東側に高坏を伏せて支脚としたカマドが付設されているものが多く、貯蔵穴はその右側コーナー部に位置する傾向があるが、貯蔵穴の位置は固定的ではないようである。遺物は比較的少ないが、第4号住居跡では須恵器が伴出している。

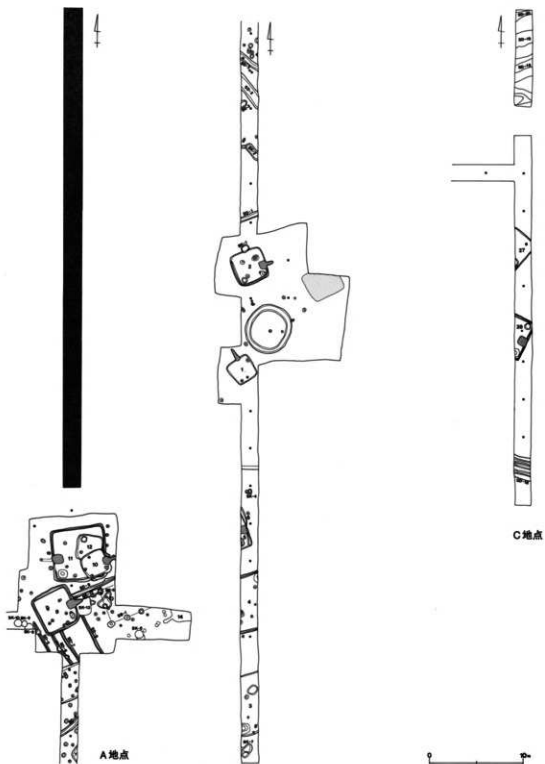
後期(6世紀～7世紀前半)の遺構は、推定も含めて竪穴式住居跡25軒・円形周溝遺構1・溝跡8条がある。住居跡は、後期前葉(6世紀前半)～後葉(7世紀前半)まで、ほぼ継続して見られ、中葉段階(6世紀後半)ではD地点北端部に大形住居跡(第35号住居跡)が存在している。また、時期は異なるがA地点の第8号住居跡や第9号住居跡の覆土中には、土師器を主体とする大量の土器が投棄されている。円形周溝遺構は、A地点で1基検出されているが、集落内では比較的遺構密度の低い場所に位置している。溝跡は、比較的小規模なものが多く、北西～南東方向か北東～南西方向に向き、地形の等高線に対して並行するか直行する流路を取っている。このうちA地点中央部北側の小規模で等間隔に並ぶ第5～8号溝跡は、その形態から畝状遺構の可能性も考えられるものである。またC地点の第16号溝跡は、その延長がB地点でも検出されており、用水的機能をもった水路と考えられる。出土遺物には、土器・土製支脚・土錘・石製模造品・石製紡錘車・砥石などがある。土器は、遺構の重複が激しいため混入と考えられるものが多く見られるが、前葉段階の土器では深谷市城北遺跡(山川1995)で特徴的な口縁端部に凹線状の平坦面を施す土器が少数見られ、中葉段階では大形住居跡の第35号住居跡で比企型坏が出土している。



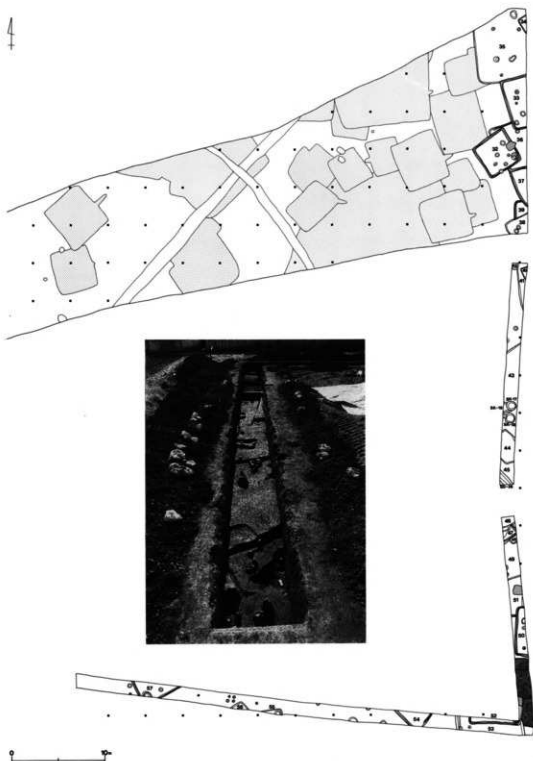
第3図 辻堂遺跡A・C・D地点調査位置図



第4図 辻堂遺跡全体図



第5図 辻堂遺跡A・C地点全体図



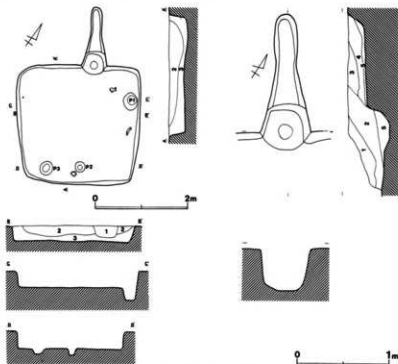
第6図 辻堂遺跡D地点全体図

第2節 検出された遺構と遺物

1 住居跡

第1号住居跡(第7図)

A地点の中央部に位置し、北東側には第1号円形周溝遺構が近接している。平面形は、2.62m×2.54mの長方形を呈し、確認面からの深さは41cmある。主軸方位は、N-30°-Wをとる。壁は、垂直ぎみに立ち上がり、各壁下に壁溝は見られない。床面は、全体に比較的堅くやや起伏が見られる。ピットは、3箇所検出されているが、P1は住居廃絶後に掘られたものである。P2とP3はいずれも住居の南東壁際から検出された浅いものであるが、その性格は不明である。カマドは、住居北西壁中央部のやや東側寄りに付設されている。規模は全長144cm・燃焼部幅55cmを測る。燃焼部は壁を掘り込んでほぼ住居壁外にあり、住居内に袖が構築されていた痕跡はない。燃焼面は床面よりも



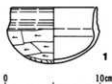
第7図 第1号住居跡

第1号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・鉄斑・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：黒褐色土層（炭化粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第1号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）



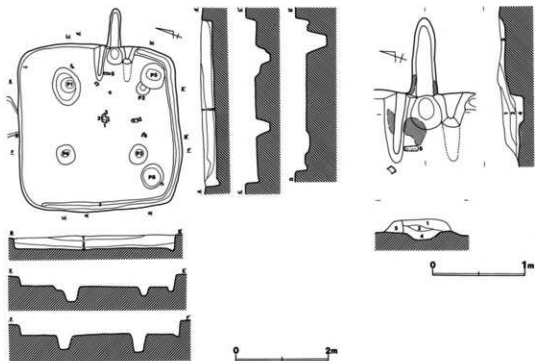
第8図 第1号住居跡出土遺物

低くあまり焼けていない。煙道部は、ほぼ水平に燃焼部より住居外に1.50m程延びている。

出土遺物は、鬼高式土器の破片が覆土中から少量出土しただけであるが、第8図No1は床面上から出土しており、本住居跡に伴うものと考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(9.0)、器高6.0 B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗橙褐色。F.1/2。G.床面上。
---	---	--



第9図 第2号住居跡

第2号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

第2号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（焼土粒子を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

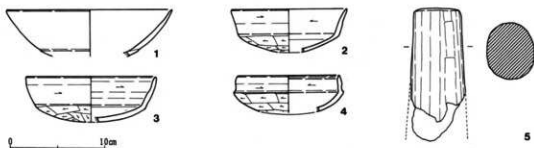
第4層：黒褐色土層（炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2号住居跡（第9図）

A地点の中央部に位置し、北側には第1号溝跡が、南側には第1号円形周溝遺構が近接している。平面形は、3.58m×3.48mのコーナー部が丸みをもつ方形を呈し、確認面からの深さは31cmある。主軸方位は、N-69°-Eをとる。壁は、垂直ぎみに立ち上がり、カマド南側の壁下から南東壁及び南西壁下にかけて幅15cm・深さ5cm程度の壁溝が巡っている。床面は、支柱穴に囲まれた中央部が堅くしまっているのに対して、壁際はかなり軟弱である。ピットは、6箇所検出されている。住居のほぼ対角線上に位置するP1～P4は支柱穴と考えられ、深さは30cm～40cmある。カマド南側のコーナー部に位置するP5は貯蔵穴と考えられる。P6は浅い土壇状の形態を呈しており、その性格は不明である。カマドは、住居北東壁中央部のやや南側寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は全長153cm・最大幅88cmを測る。袖は、ロームブロックを含む暗褐色土を、住居壁に直接貼り付けて構築しているが、右袖先端部はすでに崩壊している。燃焼部は、壁を掘り込まない形態で、あまり焼けていない。燃焼面は、床面とほぼ同じであるが、奥はやや深くなっている。また燃焼面には支脚が据えられていたようで、土製支脚(No5)が1点出土している。煙道部は、ほぼ水平に住居壁より約80cm程外に延びている。

出土遺物は、鬼高式土器の破片が覆土中を主体に少量出土している。No1の和泉式の高坏は混入であり、No2～4の鬼高式の坏は床面上からの出土で本住居跡に伴うものと考えられる。



第10図 第2号住居跡出土遺物

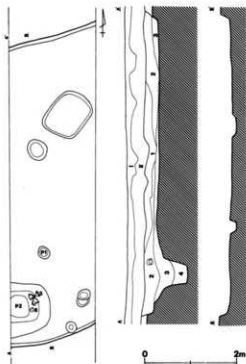
第2号住居跡出土遺物観察表

1	高 坏	A. 口縁部径(17.6) B. 粘土粒積み上げ。C. 内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明橙褐色。F. 1/4。G. 床面上。
2	坏	A. 口縁部径(12.4)。器高(4.5) C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 外一暗茶褐色、内一淡茶褐色。F. 1/3。G. 床面上。
3	坏	A. 口縁部径(14.0)。器高4.8 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/3。G. 床面上。
4	坏	A. 口縁部径(10.8) C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 1/3。G. 床面上。
5	土製支脚	A. 残存長14.1、最大幅6.0 B. 粘土塊を整形。C. 上端面ナデ。側面ケズリの後ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一暗橙褐色。F. 約2/3。G. カマド内。

第3号住居跡（第11図）

A地点の南端部に位置し、北側には第4号住居跡が近接している。調査区の関係から住居跡の一部しか調査できなかったため、本住居跡の全容は不明である。規模は、北西～南東方向が6.28mを測り、住居の北西壁はN-72°-Eを向いている。壁は、やや緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは20cm程度ある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。全体に堅くしまっているが、緩やかな起伏が見られる。ピットは、6箇所検出されているが、住居に伴うものはP1とP2の2箇所だけである。P1は、浅い小規模なものであるが、位置的には支柱穴の可能性が高い。P2は、その形態や位置から貯蔵穴と考えられる。

出土遺物は、土器が出土している。No3の高坪とNo6の小形丸底壺はP2の貯蔵穴内から出土し、他は覆土中からの出土である。



第11図 第3号住居跡

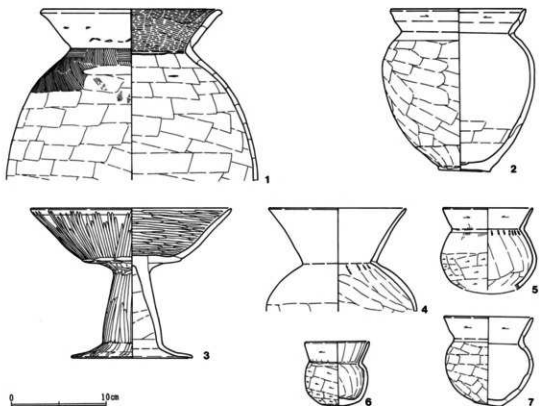
第3号住居跡土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層（白色粒子を多量に、ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）



第3号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径(19.4) B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケの後ナデ。胴部外面ハケの後裏ナデ、内面裏ナデ。D. 赤色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/4。G. 覆土中。H. 外面黒斑あり。
2	甕	A. 口縁部径14.2、器高17.2、底径5.4 B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 赤色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 完形。G. 調査区外床面付近。H. 外面黒斑あり。

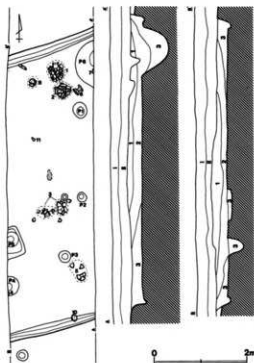


第12図 第3号住居跡出土遺物

3	高 坏	A. 口縁部径(21.4)、器高15.9 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ミガキ。口唇部ヨコナデ。胴柱部外面ケズリの後ミガキ、内面施ナデ。脚端部ヨコナデの後外面雑なミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 坏部1/4、脚部2/3。G. 貯蔵穴上面。
4	小 形 壺	A. 口縁部径14.6 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。D. 赤色粒、黒色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 3/4。G. 覆土中。
5	小形丸底壺	A. 口縁部径(9.6)、残存高8.7 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面施ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色F. 1/2。G. 覆土中。
6	小形丸底壺	A. 口縁部径7.0、器高6.8 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面施ナデ。胴部外面ケズリの後雑なナデ、内面指ナデ。D. 赤色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 完形。G. 貯蔵穴内。
7	小形丸底壺	A. 口縁部径9.6、器高9.4、底部径3.0 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 3/4。G. 貯蔵穴上面。

第4号住居跡（第13図）

A地点の南側に位置し、北側には第5号住居跡が、南側には第3号住居跡が近接している。調査区の関係から住居跡の一部しか調査できなかったため、本住居跡の全容は不明である。規模は、北西～南東方向が5.90mを測り、住居の北西壁はN-70°-Eを向いている。壁は、やや緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは20cm程度ある。調査区内で検出された北西壁と南東壁の壁下には、幅



第13図 第4号住居跡

第4号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（白色粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

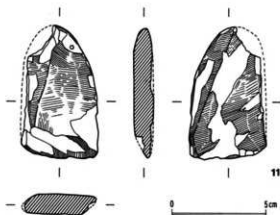
第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

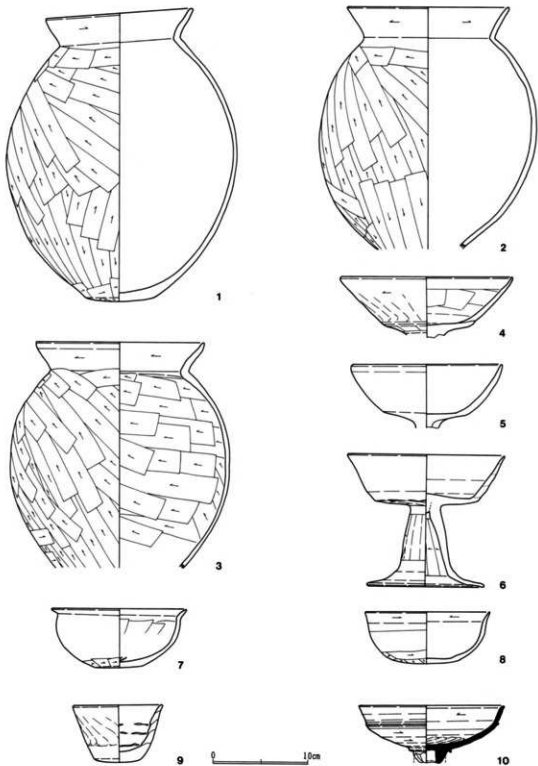


10cm～15cm・深さ5cm前後の壁溝が見られる。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅くしまっている。ピットは、6箇所検出されている。P1とP4は位置的に支柱穴の可能性が高いと考えられ、深さはP1が60cm、P4が36cmを測り、他のピットに比べて極端に深い。P6は、その形態や位置から貯蔵穴と考えられる。平面形は、円形もしくは楕円形に近いものと思われ、深さは57cmある。他のピットは、いずれも規模が小さく深さが10cm～15cmと浅いもので、その性格は不明である。住居中央部の床面上には、一時的な火熱により一部赤色化した部分が見られるが、恒常的な火熱による炉と言えるようなものではない。

出土遺物は、床面上や貯蔵穴内より土師器の甕(No1～3)・高坏(No4～6)・碗(No7・8)及び須恵器高坏(No10)等の比較的多くの土器が出土しており、その出土状態からは良好な一括資料と言える。土器以外では、住居中央部の床面上より模造品の未製品と思われる石製品(No10)が、北西壁際より扁平で長さ20cmの棒状を呈する片岩が1個出土している。



第14図 第4号住居跡出土石製品



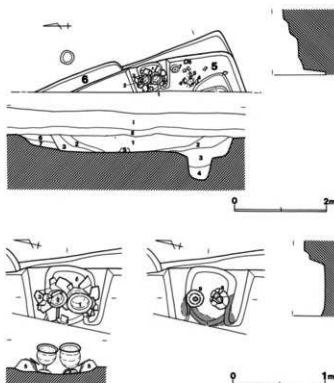
第15図 第4号住居跡出土遺物

第4号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径15.4、器高30.0、底部径7.1 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、小石、白色粒、黒色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.床面直上。H.外面黒斑あり。
2	甕	A.口縁部径17.0、残存高25.2 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒。E.内外一淡褐色。F.底部のみ欠失。G.床面直上。
3	甕	A.口縁部径17.6、残存高23.3 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの後ケズリ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.1/2。G.床面直上。
4	高 坏	A.口縁部径18.2 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデの後ヨコナデ。坏部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.坏部のみ。G.床面直上。
5	高 坏	A.口縁部径16.1 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面丁寧なナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.坏部のみ。G.床面直上。
6	高 坏	A.口縁部径16.6、器高13.6、脚端部径(12.4) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.脚端部4/5欠損。G.床面直上。
7	碗	A.口縁部径(14.0)、器高6.0、底部径5.0 C.口縁部内外面ナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面ナデの後ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、赤色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/2。G.床面直上。H.外面に黒斑あり。
8	碗	A.口縁部径13.1、器高5.3 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ、底部外面ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.完形。G.床面直上。H.底部外面に黒斑あり。
9	坏	A.口縁部径(9.5)、器高5.9、底部径4.9 B.粘土紐積み。C.体部外面指ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。
10	須恵器 高 坏	A.口縁部径14.2 B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。坏部外面回転ナデの後ナデ、内面一定方向の指ナデ。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.坏部1/2。G.床面直上。H.ロクロ回転回り。脚切断部は再調整が一部見られ、再利用されていたものと思われる。
11	石製製品 (未製品)	A.全長7.0、最大幅4.1、厚さ1.1、重量48g C.全面研磨。D.片岩。F.上端部一部欠損。G.床面直上。H.表裏面とも剥落が顕著。上端部右側に穿孔痕あり。

第5号住居跡 (第16図)

A地点の南側に位置し、本住居跡の南側には第4号住居跡が近接している。調査区内で検出されたのは住居跡の北東端の一部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。本住居跡は、第6号住居跡と重複しそれを切っている。規模は、南東～北西方向が3.50mまで、南西～北東方向が1.00mまで測れる。主軸方位は、N-103°-Eを向いている。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは35cmある。調査区内で検出された各壁下には壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。全体に堅くしまっているが、やや緩やかな起伏が見られる。ピットは、住居東側コーナー部で1箇所検出されており、その位置や形態から貯蔵穴と考えられるものである。貯蔵穴の西側は調査区外に位置するためその全容は不明であるが、2段に掘り込まれており深さは58cmある。カマドは、住居北東壁の中央付近に壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長60cm・幅98cmを測る。袖は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土(第5層)を住居壁に直接貼り付けて構築している。燃焼部は、壁を掘り込まない形態で、焚き口付近は比較的良く焼けている。燃焼面は、住居床面よりも若干低く水平をなしている。煙道部は、すでに削平されているため不明である。カマド内には、高坏を転用した支脚2個(No.8・9)が併置



第16図 第5・6号住居跡

第5・6号住居跡土層説明

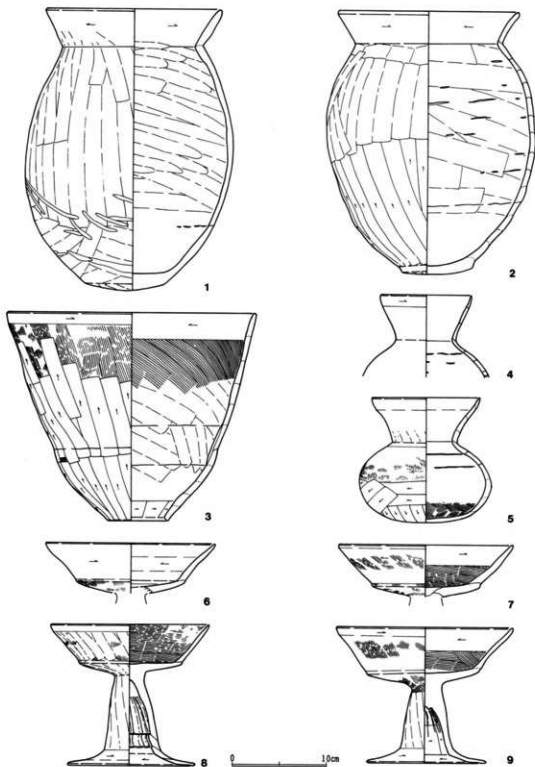
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・鉄斑・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・鉄斑を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

して据えられており、その上にNo1とNo2の甕がそれぞれ接して乗せられた状態で出土している。また、その周囲にはNo3の大形甕の破片が、袖の内側に貼り付けられたような状態で出土している。

出土遺物は、カマド内やカマド南側の貯蔵穴周辺の床面上から比較的多くの土器が出土しており、出土状態からは良好な一括資料と言えるものである。土器以外では、覆土中よりモモの炭化種子が1個出土している。

第5号住居跡出土物観察表

1	甕	A.口縁部径18.4、器高29.7、底部径8.2 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D.片岩粒、赤色粒。E.外-明茶褐色、内-淡茶褐色。F.完形。G.カマド内。
2	甕	A.口縁部径19.4、器高27.8、底部径7.6 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ケズリの後ナデ、下半ケズリ。内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、小石。E.内外-淡橙褐色。F.ほぼ完形。G.カマド内。H.外面は二次焼成を受け荒れている。
3	大形甕	A.口縁部径26.4、器高22.0、底部径6.3 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後ケズリ。内面上半ナデの後ハケ、下端ナデの後ケズリ。D.赤色粒、白色粒、黒色粒。E.外-淡茶褐色、内-明茶褐色。F.2/3。G.カマド内。
4	小形甕	A.口縁部径(9.8) B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒。E.内外-明橙褐色。F.1/2。G.床面上。H.外面に黒斑あり。
5	小形甕	A.口縁部径11.6、器高13.2 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。胴部外面上半ハケの後ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。底部外面ケズリ、内面ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.ほぼ完形。G.床面上。



第17圖 第5号住居跡出土遺物

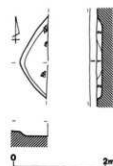
6	高 坏	A.口縁部径(17.8) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ハケの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗橙褐色。F.1/3。G.床面上。
7	高 坏	A.口縁部径18.6 B.粘土紐積み上げ。C.内外面ハケの後ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗橙褐色。F.坏部完形。G.床面上。H.外面黒斑あり。
8	高 坏	A.口縁部径16.8、器高15.0 B.脚部粘土紐巻き上げ。C.口縁部ハケの後ナデ上半ヨコナデ。坏部外面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.坏部完形、脚部1/2。G.カマド支脚。H.脚部内面紋目。
9	高 坏	A.口縁部径18.6、器高14.3 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。坏部外面ハケ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.坏部完形、脚部1/2。G.カマド支脚。H.脚部内面紋目。

第6号住居跡（第16図）

A地点の南側に位置する。調査区内で検出されたのは遺構の北東端の一部だけであり、また南側を第5号住居跡に切られているため、厳密には住居跡であるか不明である。壁は、緩やかに立ち上がり、調査区内で検出された部分には壁溝は見られない。確認面からの深さは30cmある。床面は、壁際に向かってやや高くなっており、壁際のためやや軟弱である。遺物は、何も出土していない。

第7号住居跡（第18図）

A地点の中央部に位置し、北側には第8号住居跡が近接している。調査区内で検出されたのは、住居の西側コーナー部と思われる部分だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、緩やかに立ち上がり、調査区内で検出された部分には壁溝は見られない。確認面からの深さは10cm程度ある。床面は、平坦であるがやや軟弱である。出土遺物は、床面上より和泉式土器の破片が少量出土している。



第18図 第7号住居跡

第7号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第19図 第7号住居跡出土遺物

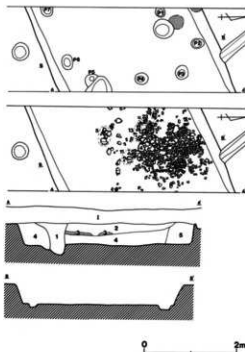
第7号住居跡出土遺物観察表

1	小形壺	A.口縁部径(11.2) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面匔ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/2。G.床面直上。H.二次焼成を受けて荒れている。
2	碗	A.口縁部径(12.0)、器高(6.1) B.粘土紐積み上げ。C.外面ナデ、内面ナデの後下半ケズリ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.1/4。G.床面直上。H.二次焼成を受けて荒れている。

第8号住居跡（第20図）

A地点の中央部に位置し、北側には第9号住居跡が、南側には第7号住居跡が近接している。本住居跡は、形態の類似する第6号溝跡と第7号溝跡の併走する2条の溝跡と重複し、それを切っている。調査区の関係から住居跡の一部しか調査できなかったため、本住居跡の全容は不明である。規模は南東～北西方向が3.56mあり、北西壁はN-66°-Eを向いている。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは46cmを測る。調査区内で検出された部分の壁下には壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、ほぼ平坦で非常に堅くしまっている。ピットは、住居跡内より9箇所検出されているが、本住居跡に伴う可能性が高いものはP1～P7の7箇所である。いずれも小規模で、深さが10cm～20cm程度の浅いものであり、その性格は不明である。カマドは、調査区内では検出されなかったが、住居北西壁の西寄りの位置に、壁と壁際の床面が焼けている所がある。カマドが崩壊したような跡が見られないため、おそらく住居構築当初に付設されたカマドの痕跡と考えられ、後に他の場所に作り替えられたものと推測される。本住居跡の覆土中には一定のレベルで焼土層が部分的に見られ（第3層）、その上層の第2層中には大量の土器片が投棄されている。

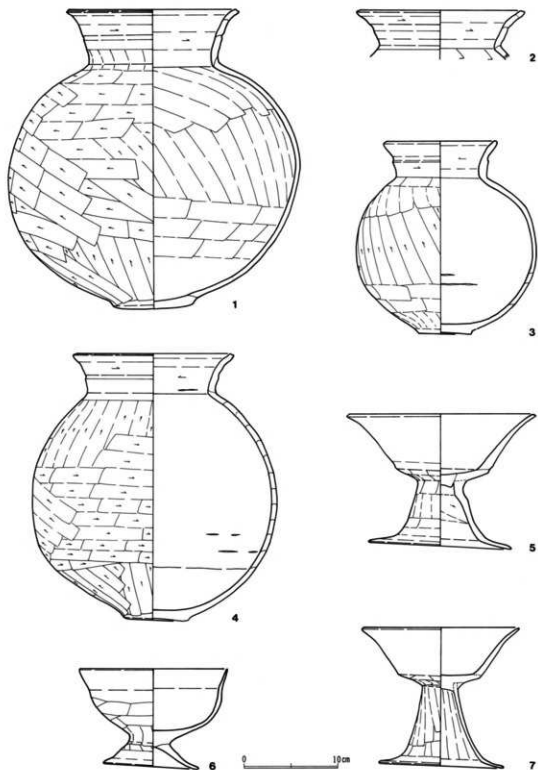
出土遺物は、大量の土器が出土しているが、これらはすべて住居廃絶後の覆土埋没過程に、住居北側から一括投棄されたものである。接合により完形品になったものもいくつかあるが、出土状態ではいずれもその原形を止めているものはなく、多くの破片になって混在した状態で出土している。土器以外では、覆土中より土錘(Na26)が1個出土している。



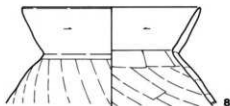
第20図 第8号住居跡

第8号住居跡土層説明

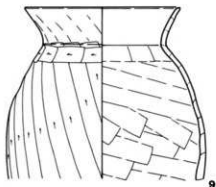
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・鉄斑を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



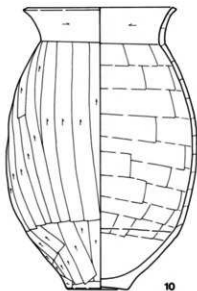
第21図 第8号住居跡出土遺物 (1)



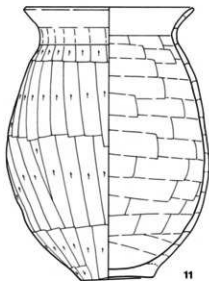
8



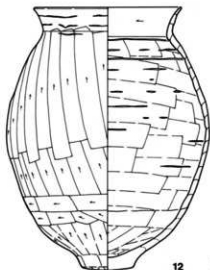
9



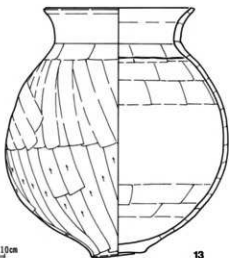
10



11



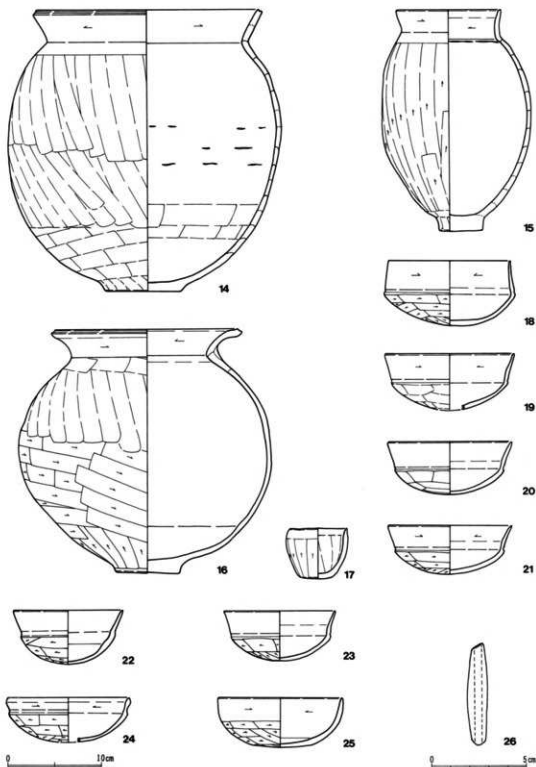
12



13

0 10cm

第22图 第8号住居跡出土遺物(2)



第23图 第8号住居跡出土遺物 (3)

第8号住居跡出土遺物観察表

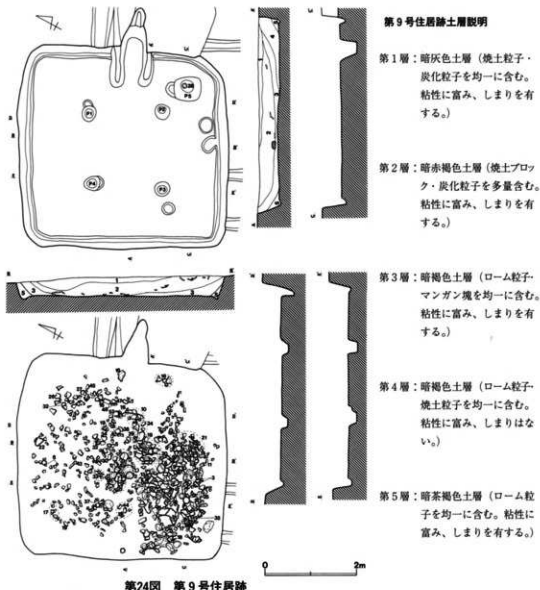
1	壺	A.口縁部径18.2、器高31.6、底部径8.4 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面刷毛状工具によるヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面匱ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一茶褐色、内一黒褐色。F.3/4。G.覆土中。H.外面に黒斑あり。
2	壺	A.口縁部径(17.8) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面匱ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一明橙褐色、内一暗褐色。F.1/2。G.覆土中。H.二次焼成を受けて荒れている。
3	壺	A.口縁部径12.0、器高20.4、底部径5.5 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.1/2。G.覆土中。
4	壺	A.口縁部径17.0、器高28.3、底部径6.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。H.外面に黒斑あり。
5	高 坏	A.口縁部径20.0、器高14.2 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。脚柱部内外面ケズリの後ナデ。脚端部内外面匱ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。G.覆土中。
6	高 坏	A.口縁部径15.6、器高10.6 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。体部外面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.3/4。G.覆土中。
7	高 坏	A.口縁部径16.6、器高14.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。体部外面ケズリ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.坏部は完形、脚部3/4。G.覆土中。
8	甕	A.口縁部径(18.8) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D.片岩粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/4。G.覆土中。
9	甕	A.口縁部径16.4 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.3/4。G.覆土中。H.二次焼成を受けている。
10	甕	A.口縁部径16.2、器高29.8、底部径6.4 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.3/4。G.覆土中。
11	甕	A.口縁部径18.0、器高28.9、底部径7.6 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。G.覆土中。
12	甕	A.口縁部径(15.6)、器高27.6、底部径5.5 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後下半ナデ、内面匱ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗茶褐色、内一暗褐色。F.3/4。G.覆土中。
13	甕	A.口縁部径(16.0)、器高26.3、底部径5.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面匱ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.3/4。G.覆土中。H.二次焼成を受けて荒れている。
14	甕	A.口縁部径(24.2)、器高29.8、底部径7.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.2/3。G.覆土中。H.二次焼成を受けて荒れている。
15	甕	A.口縁部径11.0、器高23.3、底部径4.6 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。H.外面に黒斑あり。
16	甕	A.口縁部径(20.1)、器高25.8、底部径6.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面丁寧ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒、小石。E.内外一淡褐色。F.4/5。G.覆土中。H.二次焼成を受けて荒れている。
17	碗	A.口縁部径6.0、器高5.3、底部径3.2 B.手捏ね。C.口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.3/4。G.覆土中。H.底部外面に黒斑あり。

18	坏	A.口縁部径12.8、器高6.9 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.1/2。G.覆土中。
19	坏	A.口縁部径(13.6)、器高(6.0) C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.1/2。G.覆土中。
20	坏	A.口縁部径13.0、器高5.5 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ?、内面ナデ。D.赤色粒 E.内外一明橙褐色。F.3/4。G.覆土中。
21	坏	A.口縁部径13.0、器高5.2 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.2/3。G.覆土中。
22	坏	A.口縁部径11.6、器高5.7 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗橙褐色。F.1/2。G.覆土中。
23	坏	A.口縁部径11.8、器高5.3 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。
24	坏	A.口縁部径(12.8)、器高(4.7) C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、片岩粒。E.内外一淡橙褐色。F.1/2。G.覆土中。
25	坏	A.口縁部径13.0、器高5.2 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2。G.覆土中。
26	土 鍾	A.全長4.4、幅1.1、重さ10g C.外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。

第9号住居跡(第24図)

A地点の中央部北寄りに位置し、北側には第10号住居跡と第11号住居跡及び第12号住居跡が、南側には第8号住居跡が近接している。本住居跡は、第6～9号溝跡と第12号土壌及び第13号土壌と重複し、それらをすべて切っている。平面形は、4.48m×4.26mのコーナー部がやや丸みをもつ方形を呈し、主軸方位はN-67°-Eをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは46cmある。各壁下には壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土をほぼ平坦に埋め戻した貼床式である。主柱穴に囲まれた住居中央部は比較的堅くしまっているのに対して、壁際に近い周辺部はやや軟弱である。ピットは、8箇所検出されている。P1～P4は、主柱穴と考えられるもので、ほぼ住居の対角線上に配置されているが、いずれも20cm程度でやや浅い。P5は、その形態や位置から貯蔵穴と考えられるもので、深さは35cm程度ある。底面付近よりNo28の完形の坏が出土している。この他のピットはいずれも5cm程度の浅いもので、その性格は不明である。カマドは、住居北東壁のほぼ中央の位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長151cm・幅94cmを測る。袖は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。燃焼部は、壁を掘り込む形態であるが、煙道部へはかなりゆるやかに移行する。燃焼面は、カマド第2層と第4層の2面があるが、最初の面は床面よりもやや低くなっている。煙道部は、燃焼部より約40cmほど外に残存している。本住居跡の覆土は、自然堆積の様相を示すが、上層の第1層と第2層は焼土粒子や炭化粒子を多く含んでおり、また大量の土器片と比較的大きな自然石が投棄されている。

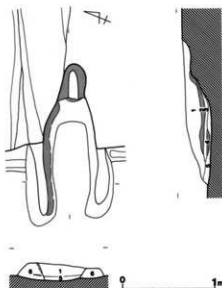
出土遺物は、覆土中より大量の土器が出土している。これらの土器片は、住居廃絶後の覆土第2層が堆積する過程で投棄されたもので、住居跡のほぼ全体に広がっているが、密度は住居跡の南側



が高いようである。出土状態から見て本住居跡に確実に伴うと考えられる土器は、貯蔵穴内から単独で出土したNo28の坏だけである。おそらく、No26～No31のような他に比べて法量がやや大きく口縁部が長いタイプの坏が、本住居跡に伴うものと思われる。

第9号住居跡出土遺物観察表

1	表	A. 口縁部径(21.0)、残存高34.1 B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面施ナアの後上半ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外—暗茶褐色、内—暗褐色。F. 1/2。G. 覆土中。
---	---	--

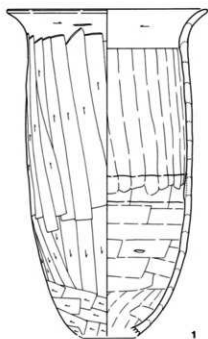


第25図 第9号住居跡カマド

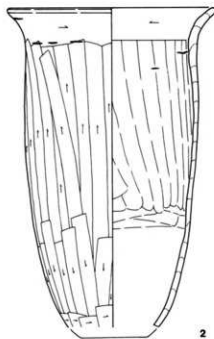
第9号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土層（ロームブロック・マンガン塊を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第3層：黒灰色土層（炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第4層：赤褐色土層（焼土層。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

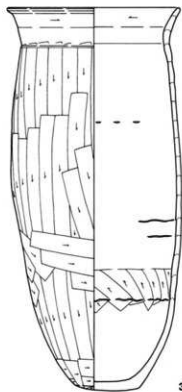
2	変	A. 口縁部径21.8、残存高33.3 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 4/5。G. 覆土中。
3	変	A. 口縁部径（18.0）、器高39.9、底径6.6 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの後中位ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、小石。E. 内外一暗茶褐色。F. 3/4。G. 覆土中。
4	変	A. 口縁部径19.2、器高36.4、底径5.3 B. 粘土紐積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一茶褐色。F. 4/5。G. 覆土中。
5	変	A. 口縁部径20.6、残存高29.4 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面寛ナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一明橙褐色。F. 4/5。G. 覆土中。
6	変	A. 口縁部径22.0、残存高27.8 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの後下半ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、小石。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/3。G. 覆土中。
7	変	A. 口縁部径19.8、残存高25.6 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一明橙褐色。F. 3/4。G. 覆土中。
8	変	A. 口縁部径21.6、残存高24.2 B. 粘土紐積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一茶褐色。F. 4/5。G. 覆土中。
9	変	A. 口縁部径18.6、残存高20.6 B. 粘土紐巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの後下半ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 4/5。G. 覆土中。
10	変	A. 口縁部径21.4、残存高22.0 B. 粘土紐積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一明橙褐色。F. 1/3。G. 覆土中。H. 器面は荒れている。
11	変	A. 口縁部径(21.8)、残存高17.3 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/2。G. 覆土中。
12	変	A. 口縁部径(22.2) B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/4。G. 覆土中。
13	変	A. 底径5.8 B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデの後上半寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、小石。E. 内外一淡茶褐色。F. 3/4。G. 覆土中。
14	変	A. 底径4.8 B. 粘土紐積み。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一暗褐色、内一淡褐色。F. 1/3。G. 覆土中。



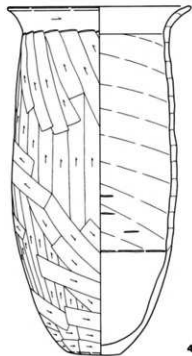
1



2



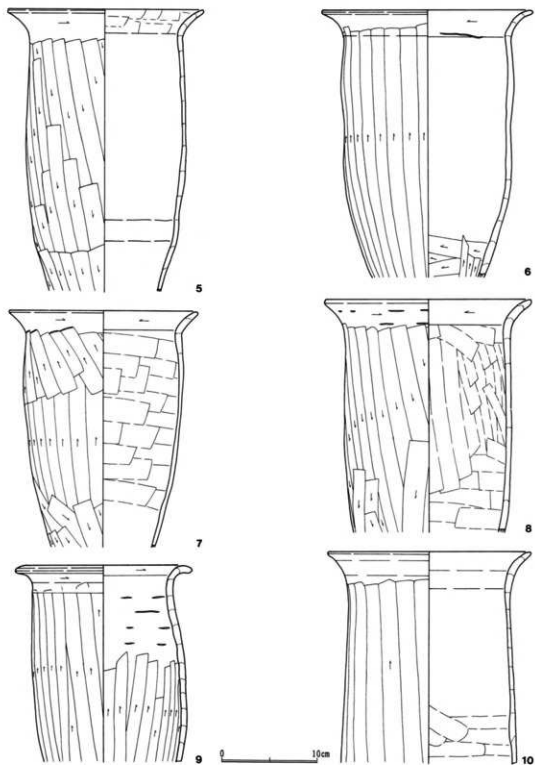
3



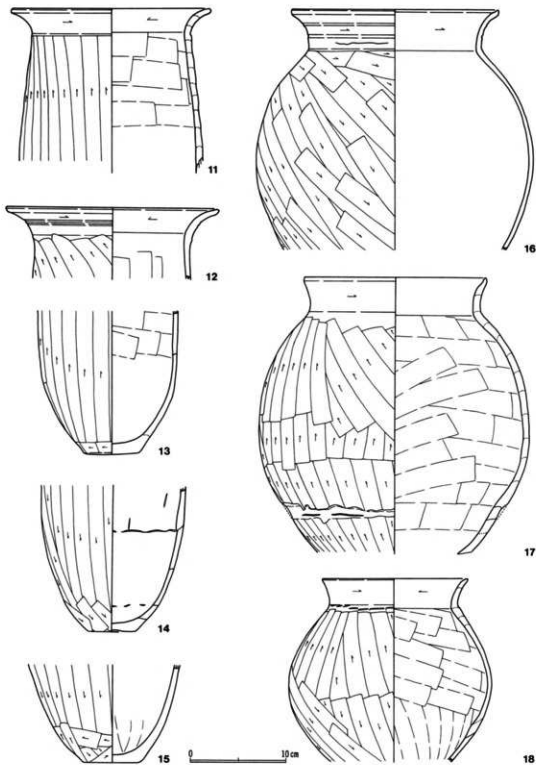
4

0 10cm

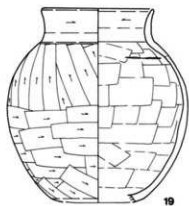
第26図 第9号住居跡出土遺物 (1)



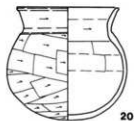
第27図 第9号住居跡出土遺物 (2)



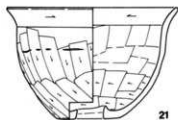
第28図 第9号住居跡出土遺物 (3)



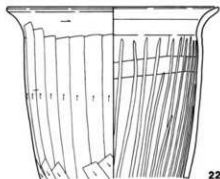
19



20



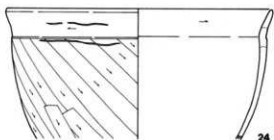
21



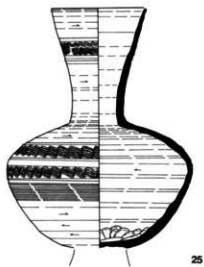
22



23



24



25

0 10cm



26

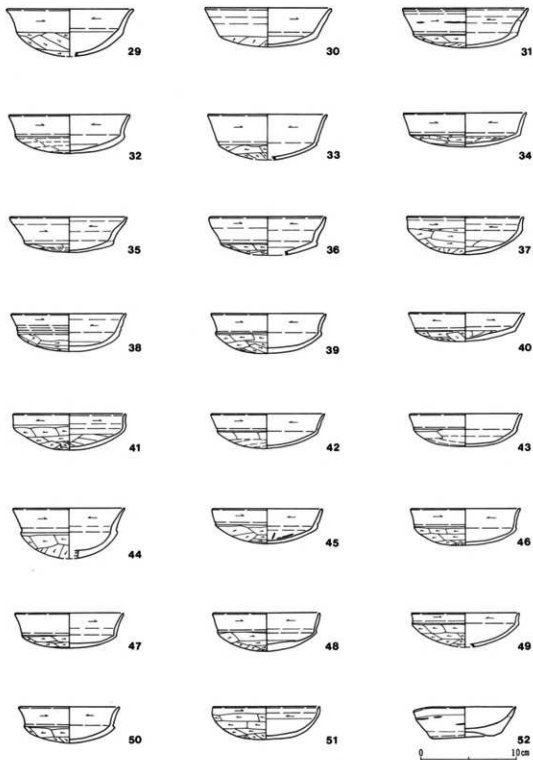


27



28

第29図 第9号住居跡出土遺物 (4)



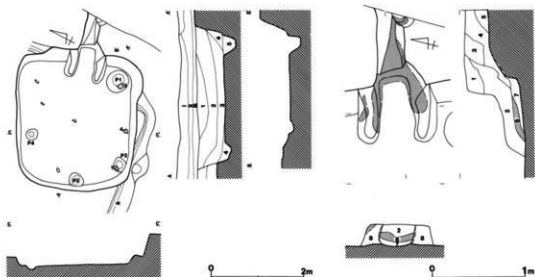
第30図 第9号住居跡出土遺物 (5)

15	甕	A. 底径6.0 B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一暗褐色、内一明茶褐色。F. 1/2。G. 覆土中。
16	甕	A. 口縁部径21.8 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一暗褐色。F. 1/2。G. 覆土中。
17	甕	A. 口縁部径(19.0)、残存高28.8 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒、小石。E. 内外一淡茶褐色。F. 2/3。G. 覆土中。
18	甕	A. 口縁部径(15.2)、残存高19.0 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 4/5。G. 覆土中。
19	短頸壺	A. 口縁部径(11.8)、器高20.1、底径(9.6) B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/2。G. 覆土中。
20	小形短頸壺	A. 口縁部径10.6、器高11.7 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 完形。G. 覆土中。
21	小形瓶	A. 口縁部径17.8、器高11.8、底径6.4 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後下半ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一明茶褐色、内一暗褐色。F. 2/3。G. 覆土中。
22	大形瓶	A. 口縁部径22.2、残存高17.9 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの後縦方向のミガキ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 3/4。G. 覆土中。
23	大形鉢	A. 口縁部径28.2 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一淡茶褐色。F. 1/2。G. 覆土中。
24	大形鉢	A. 口縁部径28.0 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 4/5。G. 覆土中。
25	須恵器長頸壺	A. 口縁部径(10.0)、残存高25.1 B. ロクロ成形。口縁部・台部貼り付け。C. 外面回転ナデの後胴下半回転ケズリ、内面回転ナデ。底部内面当道具痕。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 2/3。G. 覆土中。H. 口縁部及び胴部外面に6本歯の櫛描波状文。
26	坏	A. 口縁部径(14.0)、器高4.5 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色 F. 1/2。G. 覆土中。
27	坏	A. 口縁部径(13.8)、器高(4.1) C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色 F. 1/3。G. 覆土中。
28	坏	A. 口縁部径(12.4)、器高4.5 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色 F. 完形。G. 貯蔵穴内。H. 外面に黒斑あり。
29	坏	A. 口縁部径(13.4)、器高5.0 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色 F. 1/3。G. 覆土中。H. 外面に黒斑あり。
30	坏	A. 口縁部径(13.2)、器高4.2 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色 F. 1/3。G. 覆土中。H. 内面に煤の付着あり。
31	坏	A. 口縁部径(13.2)、器高4.2 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色 F. 1/4。G. 覆土中。H. 器表面は摩滅している。
32	坏	A. 口縁部径(12.6)、器高4.0 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色 F. 1/2。G. 覆土中。
33	坏	A. 口縁部径12.6、器高4.0 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色 F. 4/5。G. 覆土中。
34	坏	A. 口縁部径(12.8)、器高3.4 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色 F. 1/3。G. 覆土中。
35	坏	A. 口縁部径(12.4)、器高3.8 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、片岩粒、白色粒。E. 内外一明褐色 F. 1/3。G. 覆土中。H. 器表面は摩滅している。
36	坏	A. 口縁部径12.2、器高(4.0) C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色 F. 3/4。G. 覆土中。
37	坏	A. 口縁部径(12.2)、器高4.0 C. 口縁部内外面寛状工具によるヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色 F. 1/3。G. 覆土中。

38	坏	A.口縁部径(12.0)、器高4.0 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色 F.1/2。G.覆土中。
39	坏	A.口縁部径12.0、器高4.1 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色 F.1/3。G.覆土中。H.器表面は摩滅している。
40	坏	A.口縁部径12.0、器高3.0 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明橙褐色、内一淡褐色 F.1/2。G.覆土中。H.器表面は摩滅している。
41	坏	A.口縁部径11.9、器高3.8 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色 F.ほぼ完形。G.覆土中。
42	坏	A.口縁部径11.8、器高3.7 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色 F.1/2。G.覆土中。H.器表面は摩滅している。
43	坏	A.口縁部径11.8、器高3.5 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡橙褐色 F.1/2。G.覆土中。H.器表面は摩滅している。
44	坏	A.口縁部径(11.8)、器高5.2 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、片岩粒、小石。E.外一明茶褐色、内一暗茶褐色 F.1/3。G.覆土中。H.器表面は荒れている。
45	坏	A.口縁部径11.6、器高3.6 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、片岩粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色 F.1/2。G.覆土中。
46	坏	A.口縁部径11.4、器高3.9 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色 F.1/2。G.覆土中。H.外面に黒斑あり。
47	坏	A.口縁部径(11.4)、器高3.7 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色 F.3/4。G.覆土中。
48	坏	A.口縁部径11.2~12.0、器高4.0 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色 F.4/5。G.覆土中。H.器表面は荒れている。
49	坏	A.口縁部径(11.2)、器高(3.6) C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色 F.1/3。G.覆土中。H.外面に黒斑あり。
50	坏	A.口縁部径(10.6)、器高3.8 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色 F.1/3。G.覆土中。
51	坏	A.口縁部径11.2、器高3.4 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一黒褐色内一淡褐色 F.ほぼ完形。G.覆土中。H.外面に黒斑あり。
52	坏	A.口縁部径10.7、器高3.3、底径7.5 C.口縁部及び体部内外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色 F.3/4。G.覆土中。

第10号住居跡（第31図）

A地点の中央部北端に位置し、南西側には第9号住居跡が近接している。本住居跡は、第11号住居跡及び第12号住居跡と重複し、それらを切っている。平面形は、2.95m×2.70mのコーナー部の丸みが強い長方形を呈し、主軸方位はN-70°-Eをとる。壁は、直線的に若干傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは62cmある。各壁下には壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を薄くほぼ平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅くしまっている。ピットは、4箇所検出されている。P1は、その位置や規模より貯蔵穴と考えられるものである。深さは25cmと浅く、中からはNo3の坏が出土している。P2～P4は、いずれも住居西側の壁際に位置し、小規模で深さも5cm程度の浅いものである。カマドは、住居北東壁の中央やや南寄りの位置に、壁に対して若干南側に傾いて付設されている。規模は、全長が137cmまで測れ、幅は85cmある。袖は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。燃焼部は、住居の壁を若干



第31図 第10号住居跡

第10号住居跡土層説明

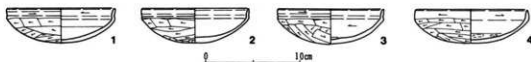
- 第1層：暗灰色土層（ローム粒子・マンガン塊を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗黄灰色土層（ローム粒子・ロームブロック・マンガン塊・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗灰色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗灰色土層（ローム粒子・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土層（ロームブロック・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：灰褐色土層（マンガン塊を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗灰色土層（ローム粒子・マンガン塊・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第7層：黒灰色土層（炭化粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第8層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第32図 第10号住居跡出土土錘



第33図 第10号住居跡出土土錘

掘り込んでおり、全体に良く焼けている。燃焼面(カマド第6層)は、焚き口から煙道部に向かって傾斜している。煙道部は、住居壁より外に60cm以上水平に延びている。

出土遺物は、覆土中や床面上より少量の土器片が、覆土中より土鍾(No5)が1個出土している。

第10号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径11.3、器高3.6 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色 F.ほぼ完形。G.P2上面。
2	坏	A.口縁部径11.3、器高3.6 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面不明。D.白色粒。E.内外—淡褐色 F.2/3。G.覆土中。H.外面に黒斑あり。
3	坏	A.口縁部径11.2、器高3.6 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色 F.ほぼ完形。G.P3内。
4	坏	A.口縁部径11.8、器高3.5 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外—淡褐色 F.2/3。G.床面上。H.体部内面指頭圧痕あり。
5	土 鍾	A.全長4.7、幅1.0、重さ9g C.外面ナデ。D.片岩粒、E.淡褐色、赤色粒、白色粒。F.ほぼ完形。G.覆土中。

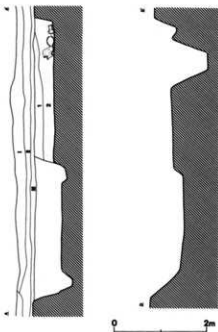
第11号住居跡 (第35図)

A地点の中央部北端に位置し、南側には第9号住居跡が近接している。本住居跡の東側は、重複する第10号住居跡と第12号住居跡によって切られている。平面形は、5.82m×5.66mの比較的整った方形を呈し、主軸方位はN-93°-Wをとる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは48cmある。各壁下には深さ5cm程度の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土をほぼ平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅くしまっている。ピットは、4箇所検出されている。P1とP2は、その位置から主柱穴と考えられるもので、深さは20cm~30cmある。P3は、平面形が隅丸長方形ぎみの形態を呈し、深さは80cmを測る。その位置や形態から貯蔵穴と考えられるものであり、中からはNo34・36・38・41・44の完形もしくは完形に近い坏が出土している。P4は、南側壁際に位置している。深さ5cm程度の浅いもので、床面上に露出している大きな台石の掘え穴と考えられる。カマドは、住居西側壁の中央やや南寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長2.68m・幅97cmを測る。袖は、ロームブロックを均一に含む黄褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。燃焼部は、住居の壁を掘り込まない形態で、幅はやや狭い。全体に良く焼けている。中央部からは完形の甕(No4)とその手前から坏(No28)が出土している。燃焼面は、床面とほぼ同じで、中央に高坏の脚部(No22)を転用した支脚が据えられている。煙道部は、住居外に1.40m程水平に延びて上方に立ち上がっている。

出土遺物は、カマド及びその周辺の床面上より完形に近い土器が多数出土しており、住居廃絶に伴って放置されたものと推測される。また、カマド北側の壁際の一群は、壁上に置いてあったものが下転落したような状態で出土している。土器以外では、覆土中より石製模造品(No50)が1個出土している。



第34図 第11号住居跡出土石製模造品



第11号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・マンガンを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

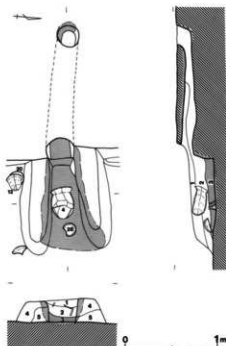
第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に、焼土粒子・マンガンを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第35図 第11・12号住居跡

第11号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(20.0)、器高29.9、底径6.7 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒、小石。E.内外一淡茶褐色。F.1/2。G.床面上。H.胴部外面に黒斑あり。
2	甕	A.口縁部径18.6、器高32.2、底径6.2 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後下半ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒、黒色粒、小石。E.内外一淡褐色。F.ほぼ定形。G.床面上。H.胴部外面下半は二次焼成により赤色化している。
3	甕	A.口縁部径16.0、器高30.0、底径6.8 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。胴部内面上半寛ナデ、中位指ナデ、下半ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.定形。G.床面上。H.外面に黒斑あり。

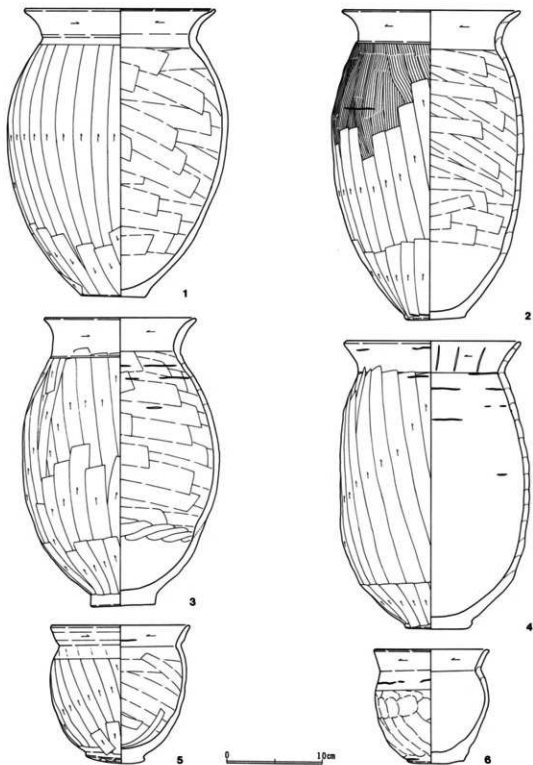


第36図 第11号住居跡カマド

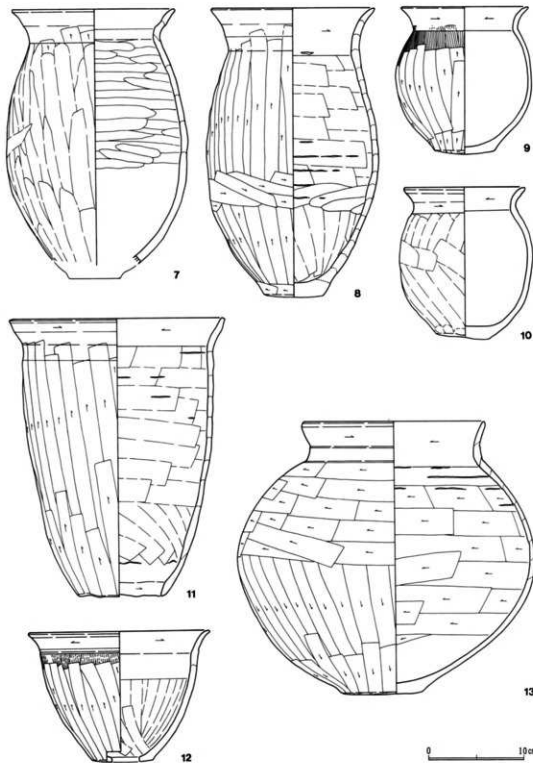
第11号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰色土層（ローム粒子・焼土粒子・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第2層：暗灰色土層（焼土粒子を均一に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗赤褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

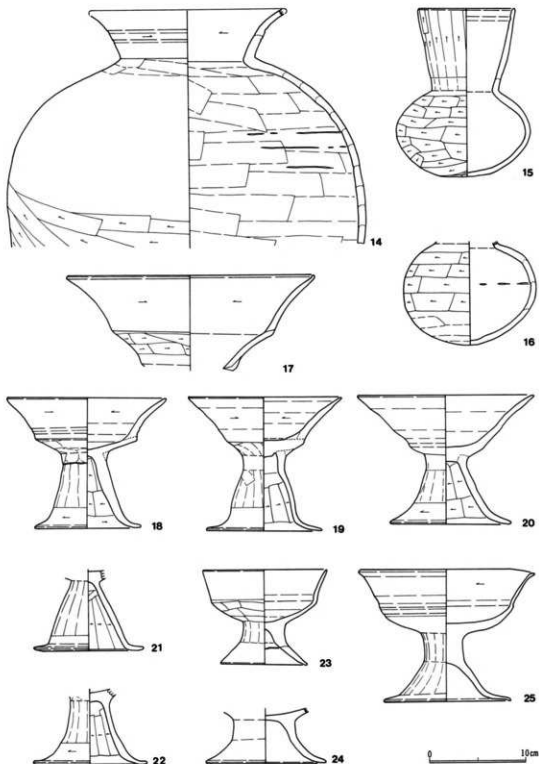
4	壺	A.口縁部径18.4、器高30.0、底径6.5 B.粘土経積み。C.口縁部内外面寛ナデの後ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半に雑なナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒、黒色粒、小石。E.内外一淡橙褐色。F.ほぼ完形。G.カマド内。H.外面に黒斑あり。
5	小形壺	A.口縁部径14.4、器高14.5、底径5.8 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後部分的な寛ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒、小石。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.床面上。H.内面に黒色付着物あり。
6	小形壺	A.口縁部径12.1、器高11.8、底径5.8 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、小石。E.外一淡橙褐色、内一暗褐色。F.完形。G.床面上。H.外面に黒斑あり。
7	壺	A.口縁部径17.0、残存高26.5 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ。胴部内面上半指ナデ、下半ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.残存部ほぼ完形(底部欠失)。G.床面上。H.外面に黒斑あり。胴部外面下半赤色化。
8	壺	A.口縁部径17.2、器高30.1、底径6.2 B.粘土経積み。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデの後中位指ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒、黒色粒。E.外一暗茶褐色、内一淡茶褐色。F.4/5。G.床面上。
9	小形壺	A.口縁部径13.4、器高15.3、底径6.2 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面粗いハケの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、小石。E.外一暗茶褐色、内一淡褐色。F.4/5。G.覆土中。
10	小形壺	A.口縁部径12.6、器高15.9、底径5.5 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、小石。E.内外一淡褐色。F.4/5。G.覆土中。H.外面に黒斑あり。胴部外面下半赤色化。
11	大形甔	A.口縁部径22.6、器高28.9、底径9.3 B.粘土経積み。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.ほぼ完形。G.床面上。H.外面に黒斑あり。



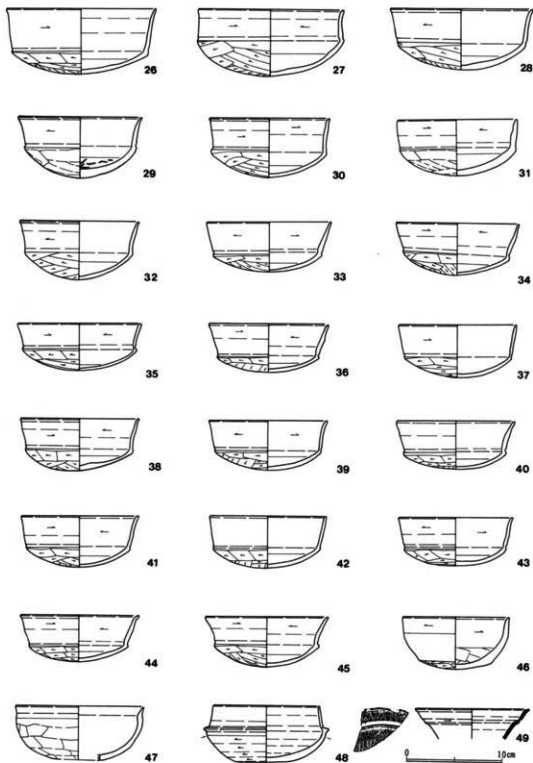
第37図 第11号住居跡出土遺物 (1)



第38図 第11号住居跡出土遺物 (2)



第39图 第11号住居跡出土遺物 (3)



第40図 第11号住居跡出土遺物 (4)

12	小形甕	A.口縁部径19.0、器高13.6、底径6.3 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒、小石。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.床面上。H.底部穿孔径2.8cm(焼成前)。
13	甕	A.口縁部径19.2、器高28.3、底径8.5 B.粘土紐輪積み。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面施ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2。G.覆土上層。
14	甕	A.残存高24.3 B.粘土紐輪積み。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後中位ケズリ、内面施ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.胴部上半のみ。G.床面上。
15	小形甕	A.口縁部径10.0、器高17.7 B.粘土紐積み上げ。C.外面ケズリの後細かい横方向のミガキを雑に施す。内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.床面上。
16	小形甕	A.残存高10.9 B.粘土紐巻き上げ。C.外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.胴部のみ。G.床面上。H.外面に黒度あり。
17	高 坏	A.口縁部径25.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ケズリの後ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.赤色粒、片岩粒。E.内外一明橙褐色。F.坏部のみ。G.床面上。
18	高 坏	A.口縁部径16.6、器高13.6 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部及び脚部外面ケズリの後ナデ、脚部内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、片岩粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.完形。G.西側壁際床面付近。
19	高 坏	A.口縁部径16.0、器高13.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部及び脚部外面ケズリの後ナデ、脚部内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.ほぼ完形。G.西側壁際床面上。
20	高 坏	A.口縁部径18.4、器高13.6 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。坏部及び脚部外面ケズリの後ナデ、脚部内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.完形。G.カマド南側床面上。
21	高 坏	A.残存高8.3 B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.脚部のみ。G.床面上。
22	高 坏	A.残存高7.8 B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.脚部のみ。G.カマド支脚。
23	高 坏	A.口縁部径13.0、器高9.9 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.ほぼ完形。G.床面上。
24	高 坏	A.残存高5.8 B.粘土紐積み上げ。C.脚部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.脚部のみ。G.覆土中。
25	高 坏	A.口縁部径18.4、器高13.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部及び坏部内外面ヨコナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.完形。G.西側壁際覆土中。
26	坏	A.口縁部径15.6、器高6.8 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.ほぼ完形。G.床面上。
27	坏	A.口縁部径(15.2)、器高7.0 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.2/3。G.床面付近。
28	坏	A.口縁部径15.0、器高6.3 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.3/4。G.カマド内。
29	坏	A.口縁部径13.0、器高6.5 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.赤色粒、黒色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.西側壁際床面上。
30	坏	A.口縁部径12.6、器高6.1 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.ほぼ完形。G.カマド内。
31	坏	A.口縁部径12.6、器高5.9 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.ほぼ完形。G.床面上。
32	坏	A.口縁部径12.4、器高6.1 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、黒色粒。E.内外一明橙褐色。F.ほぼ完形。G.床面付近。

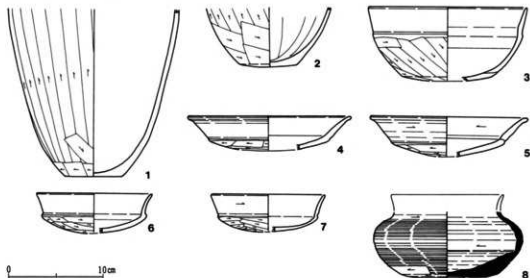
33	坏	A.口縁部径13.0、器高5.2 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。G.床面上。
34	坏	A.口縁部径12.8、器高5.4 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。G.貯蔵穴（P3）内。
35	坏	A.口縁部径（13.0）、器高5.0 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/3。G.床面上。H.外面に黒斑あり。
36	坏	A.口縁部径12.6、器高5.0 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.ほぼ完形。G.貯蔵穴（P3）内。H.外面に黒斑あり。
37	坏	A.口縁部径12.4、器高5.5 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.ほぼ完形。G.床面上。H.外面に黒斑あり。
38	坏	A.口縁部径12.4、器高5.5 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.3/4。G.貯蔵穴（P3）内。
39	坏	A.口縁部径12.4、器高5.3 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.完形。G.床面上。
40	坏	A.口縁部径12.4、器高5.0 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.3/4。G.覆土中。H.外面に黒斑あり。
41	坏	A.口縁部径12.2、器高5.4 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.ほぼ完形。G.貯蔵穴（P3）内。
42	坏	A.口縁部径12.3、器高5.4 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.完形。G.床面上。H.外面に黒斑あり。
43	坏	A.口縁部径12.0、器高5.1 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。G.床面上。H.外面に黒斑あり。
44	坏	A.口縁部径12.4、器高5.0 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.ほぼ完形。G.貯蔵穴（P3）内。
45	坏	A.口縁部径（12.8）、器高5.3 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.1/2。G.覆土中。
46	碗	A.口縁部径11.2、器高5.6 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.床面上。
47	碗	A.口縁部径（13.3）、器高5.7 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一黒褐色。F.3/4。G.覆土中。
48	須恵器 坏	A.口縁部径11.0、器高5.9 C.口縁部内外面回転ナデ。体部外面回転寛ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.床面上。H.酸化焰焼成。
49	須恵器 甕	A.口縁部径（12.0） B.ロクロ成形。C.口縁部及び頸部内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一淡灰色。F.1/8。G.覆土中。H.口縁部と頸部外面に櫛状波状文。
50	石製模造品 （有孔円盤）	A.最大径2.3、厚さ0.3、重さ8g C.表裏面及び側面研磨。D.片岩。F.完形。G.覆土中。H.穿孔は中央に1孔。

第12号住居跡（第35図）

A地点の中央部北端に位置し、南西側には第9号住居跡が近接している。本住居跡は、第10号住居跡及び第11号住居跡と重複しており、第11号住居跡を切っているが、住居南東側を第10号住居跡によって切られているため、本住居跡の全容は不明である。平面形は、2.78m×2.62mの比較的整った方形を呈するものと考えられ、主軸方位はN-95°-Eをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは21cmある。壁下には壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む黄褐色土をほぼ平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅くしまっている。ピットは、住居西側の壁際より1箇所（P1）検出されている。深さ20cmの小規模なもので、性格は不明である。カマドは、住居

東側壁の南東コーナー部寄りに、壁に対してほぼ直角に付設されている。燃焼部の大半を第10号住居跡に切られているため、カマドの全容は不明である。燃焼部は、住居の壁を約70cm掘り込んでおり、燃焼面は、床面とほぼ同じである。煙道部は、燃焼面より5cm程度高く、燃焼部奥壁より60cm程外に水平に延びて、それから上方に立ち上がっている。

出土遺物は、カマド前面の床面上(No1・2)や中央部から西側にかけての覆土中(No3～8)から、土器が破片になって出土している。



第41図 第12号住居跡出土遺物

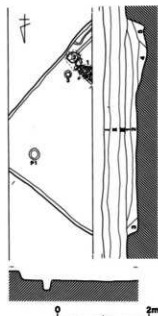
第12号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 残存高17.6、底径6.0 B. 粘土経積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外—明茶褐色。F. 2/3。G. 床面上。
2	甕	A. 残存高6.3、底径6.0 B. 粘土経積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒、赤色粒。E. 内外—暗茶褐色。F. 底部のみ。G. 床面上。H. 外面に黒斑あり。
3	鉢	A. 口縁部径(16.6)、器高(7.7)、底径(9.3) B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒、小石。E. 内外—暗茶褐色。F. 1/4。G. 覆土中。
4	皿	A. 口縁部径(17.0)、器高(3.6) C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外—淡茶褐色。F. 1/4。G. 床面付近。
5	皿	A. 口縁部径(16.4)、器高(4.1) C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外—暗茶褐色、内—淡茶褐色。F. 1/4。G. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径(12.2)、器高4.1 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外—明橙褐色。F. 1/3。G. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径(12.0)、器高3.9 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外—淡橙褐色。F. 1/4。G. 覆土中。
8	須恵器短頸壺	A. 残存高6.9、底径8.1 B. ロクロ成形。C. 頸部内外面回転ナデ。胴部外面カキ目、内面回転ナデ。底部外面回転ナデの後外周回転轆轤ケズリ。D. 小石、白色粒。E. 内外—暗灰色。F. 1/2。G. 覆土中。

第27号住居跡（第42図）

C地点の中央部北寄りに位置し、南側には第28号住居跡が近接している。調査区の関係から住居跡の一部しか調査できなかったため、本住居跡の全容は不明である。規模は、北東～南西方向が3.60mまで、北西～南東方向が3.10mまで測れる。主軸方位は、N-127°-Eをとる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは20cmを測る。壁溝は、南東側壁の西側に一部見られるだけである。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、やや起伏がある。全体に堅くしまっている。ピットは、1箇所検出されているが、小規模で深さも10cm程度の浅いものであり、その性格は不明である。カマドは、南東側壁のNo1とNo2の堦の西側に付設されていたようである。調査区西側断面の観察によると、燃烧部は壁を掘り込まない形態で、燃烧面は床面よりも低くなっている。

出土遺物は、南東側壁際のカマド東側の床面上より、No1とNo2の堦及びNo3の枕が出土しているが、これらは、住居の廃絶とともに放置されたものと考えられる。



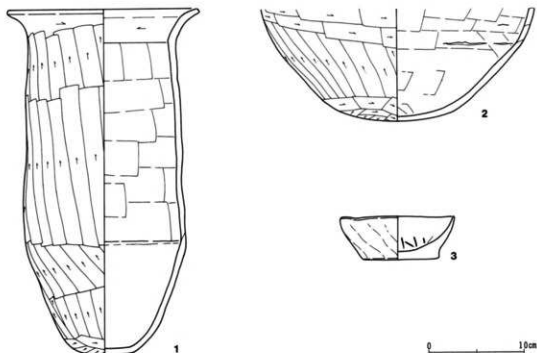
第42図 第27号住居跡

第27号住居跡土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・小石を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：黒茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・マンガン塊を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：黒褐色土層（炭化粒子を均一に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を均一に、炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第27号住居跡出土遺物観察表

1	堦	A. 口縁部径20.4、器高36.8 B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面上半施ナゲ下半ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外上半一明橙褐色、外下半一暗橙褐色、内一暗茶褐色。F. ほぼ完形。G. 床面上。
2	堦	A. 残存高12.0 B. 粘土経輪積み。C. 胴部外面ケズリ、内面施ナゲの後ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一淡褐色。F. 胴部下半完形。G. 床面上。
3	枕	A. 口縁部径12.0、器高4.6、底径8.2 B. 粘土経積み上げ。C. 体部内外面及び底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡茶褐色、内一暗茶褐色。F. ほぼ完形。G. 床面上。H. 外面に黒斑あり。

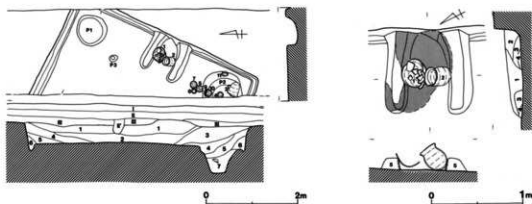


第43図 第27号住居跡出土遺物

第28号住居跡（第44図）

C地点の中央部に位置し、北側には第27号住居跡が近接している。調査区の関係から住居跡の一部しか調査できなかったため、本住居跡の全容は不明である。規模は、北東～南西方向が4.32m、北西～南東方向は2.40mまで測れる。壁は、直線的に若干傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは39cmを測る。調査区内で検出された各壁下には、深さ5cm～10cmの壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に平坦で堅くしまっている。ピットは、3箇所検出されている。カマド両側のコーナー部に位置するP1とP2は、規模の大きな円形を呈するもので、P2はその形態から貯蔵穴と考えられる。深さは55cmあり、中位から上面にかけて完形の土器が多く出土しているが、これらはいずれも貯蔵穴周辺に置かれていたものが、中に落ち込んだような状態である。P1は、深さ28cmで底面は丸みを帯びている。P3は、直径15cmの小規模な円形を呈するもので、深さは30cmある。カマドは、南東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長91cm・幅95cmを測る。袖は、ロームブロックを主体とする暗黄褐色土を、壁に直接貼り付けて構築している。燃焼部は、壁を掘り込まない形態で、全体に良く焼けている。燃焼面は、床面とほぼ同じで平坦である。カマド内には支脚はないが、No1とNo2の甕が2個横に並んで併置されている。

出土遺物は、カマド内や貯蔵穴内及びその周辺の床面上より、完形の土器が多く出土している。これらはその出土状態から見て、住居の廃絶に伴ってそのまま放置されたものと考えられる。



第44図 第28号住居跡

第28号住居跡土層説明

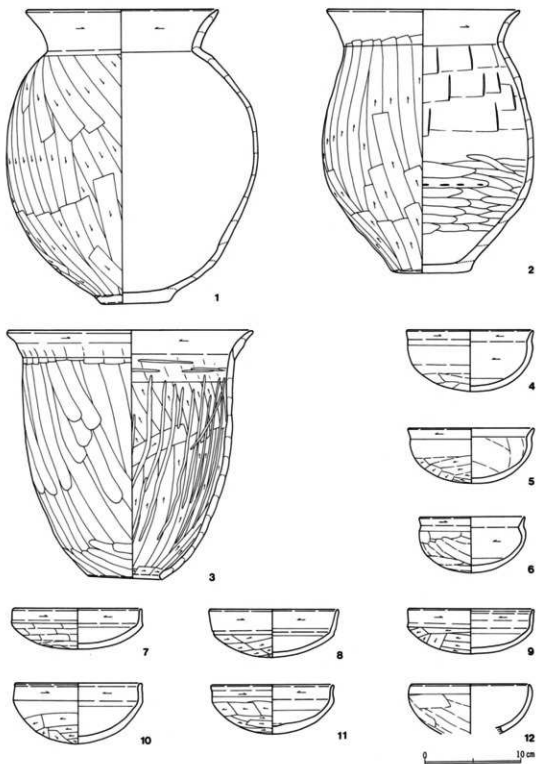
- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・小石・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（マンガン塊を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗茶褐色土層（小石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第7層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第28号住居跡カマド土層説明

- 第1層：黒褐色土層（焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第2層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗黄褐色土層（ロームブロック・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗灰色土層（焼土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第28号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径20.4、器高31.0、底径7.5 B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒、小石。E. 内外一暗茶褐色。F. はほぼ完形。G. カマド内。H. 外面に黒斑あり。
2	甕	A. 口縁部径20.2、器高27.5、底径8.2 B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面上半部ナデ、下半ナデの後指ナデ。底部外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒、小石。E. 内外一暗茶褐色。F. はほぼ完形。G. カマド内。H. 外面に黒斑あり。
3	大形甕	A. 口縁部径25.8、器高26.3、底径7.6 B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後丁寧ナデ、内面ケズリの後ミガキ。D. 赤色粒、白色粒、黒色粒。E. 内外一明茶褐色。F. はほぼ完形。G. 貯蔵穴内。H. 外面に黒斑あり。
4	甕	A. 口縁部径13.1、器高6.5 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 完形。G. 貯蔵穴内。
5	甕	A. 口縁部径13.2、器高5.7 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後丁寧ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 完形。G. 床面上。
6	甕	A. 口縁部径11.0、器高5.8 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 完形。G. 床面上。
7	坏	A. 口縁部径13.5、器高4.3 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 完形。G. 床面上。H. 外面に黒斑あり。



第45図 第28号住居跡出土遺物

8	坏	A.口縁部径13.6、器高5.0 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外—淡茶褐色、内—明茶褐色。F.完形。G.貯蔵穴内。
9	坏	A.口縁部径13.2、器高4.7 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外—明茶褐色。F.完形。G.貯蔵穴内。
10	坏	A.口縁部径13.3、器高6.4 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外—明茶褐色。F.完形。G.貯蔵穴内。
11	坏	A.口縁部径12.9、器高5.2 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.完形。G.貯蔵穴上面。
12	碗	A.口縁部径(12.2) C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D.赤色粒。E.内外—淡橙褐色。F.1/3。G.貯蔵穴内。

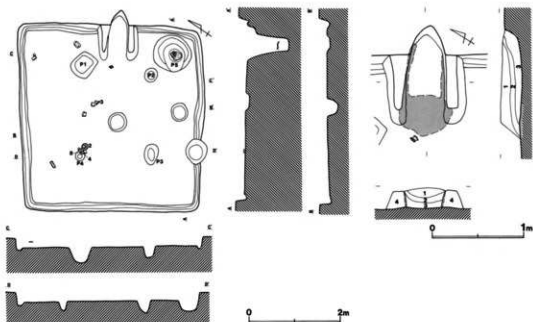
第32号住居跡（第46図）

D地点の北側に位置し、重複する第36号住居跡と第37号住居跡を切っている。平面形は、4.00m×3.96mの比較的整った方形を呈し、主軸方位はN-60°-Eをとる。壁は、直線的に立ち上がり、確認面からの深さは27cmある。各壁下には深さ5cm程度の壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に平坦である。住居中央部は比較的堅くしまっているのに対して、壁際の周辺部はやや軟弱である。ビットは、7箇所検出されているが、本住居跡に伴うと考えられるのはP1～P5の5箇所である。P1～P4は、主柱穴と考えられるもので、ほぼ住居の対角線上に位置し、深さは20cm～40cmある。P5は、その位置や形態から貯蔵穴と考えられるもので、深さは90cmと深く、中から№6の大形瓶の破片が出土している。カマドは、北東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長106cm・幅83cmを測る。袖は、ローム粒子を主体とする暗褐色土を、壁に直接貼り付けて構築している。燃焼部は、壁を掘り込む形態で、全体に良く焼けている。燃焼面は2面あり、カマド構築当初は床面とはほぼ同じで水平をなしているが、第2面(カマド第2層)は床面よりも高く、焚き口から煙道部に向かって傾斜させている。

出土遺物は、土器片が多く出土しているが、出土状態から本住居跡に伴うと考えられるものは、貯蔵穴内から出土した№6の大形瓶だけである。この他は、いずれも覆土中から出土したもので、混入品が多く良好な一括資料とは言えない。

第32号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(20.0) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—明茶褐色。F.1/4。G.覆土中。
2	高 坏	A.口縁部径12.4、器高9.9 C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。脚部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡橙褐色。F.坏部完形、脚部1/2。G.覆土中。
3	高 坏	A.口縁部径(17.4)、残存高10.9 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部及び脚部外面ケズリの後ナデ。脚部内面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—暗橙褐色。F.1/4。G.覆土中。
4	高 坏	A.残存高6.6、脚部径10.4 B.粘土紐巻き上げ。C.脚部内外面ナデ。脚部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡黄褐色。F.脚部のみ。G.覆土中。H.外面赤彩。



第46図 第32号住居跡

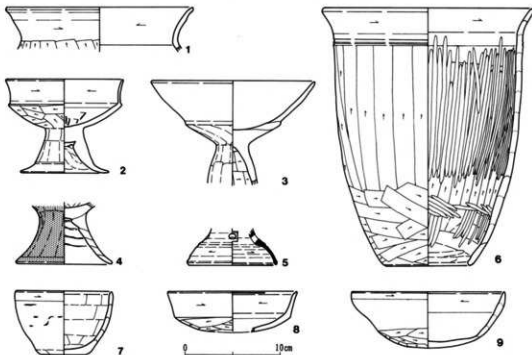
第32号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第2層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗灰褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

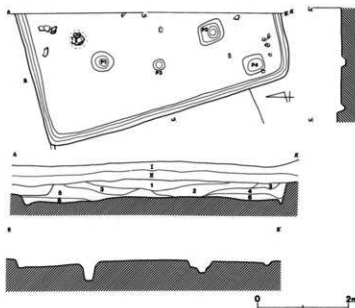


第47図 第32号住居跡出土遺物

5	須恵器 台付	A. 残存高3.9、脚端部径(9.6) B. ロクロ成形。C. 台部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 1/2。G. 覆土中。H. 台部に穿孔あり。
6	大形甕	A. 口縁部径(22.5)、器高27.2、底径9.4 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後ミガキ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一黒褐色。F. 1/2。G. 貯蔵穴内。
7	甕	A. 口縁部径(10.2)、器高6.8、底径4.6 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/3。G. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径(13.8)、器高4.2 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 1/4。G. 覆土中。
9	甕	A. 口縁部径14.9~16.6、器高5.9 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D. 小石、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 3/4。G. 覆土中。

第33号住居跡(第48図)

D地点の北側に位置し、南西側には第32号住居跡が近接している。住居跡の北側上面を第35号住居跡に切られ、第36号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、住居跡の西側半分だけであるため、本住居跡の全容は不明である。平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、比較的整った方形もしくは長方形を呈するものと思われる、住居北西側壁はM-73°-Eを向いている。規模は、北西から南東方向が5.46m・南西~北東方向は2.92mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは23cmを測る。調査区内で検出された各壁下には、深さ5cm~10cmの壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻



第48図 第33号住居跡

第33号住居跡土層説明

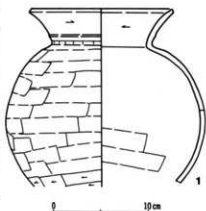
- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・鉄斑を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・鉄斑を均一に、炭化粒子を微量

含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

した貼床式で、北側に向かって緩やかに傾斜している。住居中央部は堅くしまっているが、周辺部はやや軟弱である。ピットは、4箇所検出されており、いずれも本住居跡に伴うものである。P1とP2は、主柱穴と考えられ、深さは40cmと30cmある。P3は、主柱穴と考えられるP1とP2の中間に位置する。小規模な円形を呈し、深さは8cmと浅いものである。P4は、コーナー部に位置し、長方形に近い形態を呈し、深さは10cm程度である。いずれもその性格は不明である。

出土遺物は、覆土中を主体に土器片が少量出土しただけである。No1の壺は、口縁部を床面に付けて、上から押し潰されたような状態で出土している。



第49図 第33号住居跡出土遺物

第33号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径15.0、残存高18.6 B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後丁寧なナデ、内面丁寧なナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 上半部のみ。G. 床面上。H. 器表面は斑点状の剥落が顕著に見られる。
---	---	--

第34号住居跡（第50図）

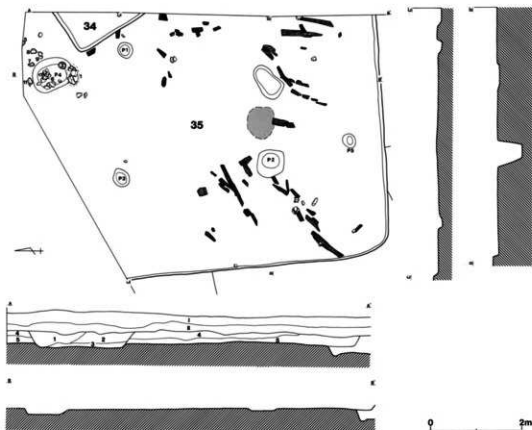
D地点の北端に位置し、重複する第35号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは住居跡の西側コーナー部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは12cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、周辺部のためか軟弱である。

出土遺物は、鬼高式土器の破片が数片出土しただけである。

第35号住居跡（第50図）

D地点の北端に位置し、重複する第34号住居跡に切られ、第33号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは住居跡の西側部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは12cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を薄く埋め戻した貼床式で、全体に堅く平坦である。P2東側の床面上には、一部火熱により赤色化した部分が見られる。床面上には住居の中心に向かって放射状に多くの炭化材が見られることから、本住居跡は火災により消失したものと考えられる。住居跡に伴う可能性が高いと考えられるピットは、P1～P5の5箇所である。P1～P3は、P1とP2が深さ10cm、P3が深さ55cmとまちまちであるが、配置的には主柱穴の可能性が考えられる。P4は、深さ21cmの土壇形状を呈するもので、その中や周辺から土器が多く出土している。P5は、深さ15cmの浅い小規模なもので、その性格は不明である。

出土遺物は、覆土中から土器片が多く出土しているが、ある程度土器の器形が伺えるようなものは、P4内及びその周辺の床面上に集中している。



第50図 第34・35号住居跡

第34・35号住居跡土層説明

<第34号住居跡>

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

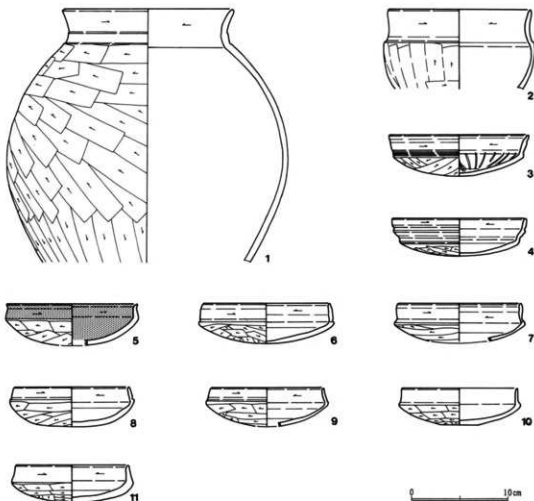
<第35号住居跡>

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第35号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(18.0)、残存高27.0 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒。E. 外一淡茶褐色、内一暗褐色。F. 1/4。G. 床面上。H. 胴部上半と下半は接合しない。器形は図上復元。
2	鉢	A. 口縁部径(14.6)、残存高8.3 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一明茶褐色、内一暗茶褐色。F. 1/4。G. P 4 内。
3	坏	A. 口縁部径14.4、器高4.4 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡褐色、内一暗橙褐色。F. 完形。G. P 4 内。
4	坏	A. 口縁部径(13.8)、器高3.9 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黑色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/3。G. 覆土中。

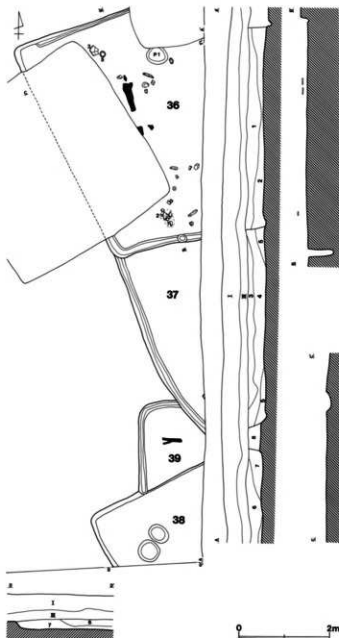


第51図 第35号住居跡出土遺物

5	坏	A. 口縁部径(13.6)、器高4.4 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒。E. 内外—淡褐色。F. 1/2。G. 床面付近。H. 口縁部外面と内面に赤彩。
6	坏	A. 口縁部径(13.2)、器高4.2 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒、黒色粒。E. 内外—暗茶褐色。F. 1/3。G. P 4 内。
7	坏	A. 口縁部径(12.8)、器高(4.3) C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外—暗茶褐色。F. 1/2。G. 床面付近。
8	坏	A. 口縁部径(12.0)、器高4.1 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外—明茶褐色。F. 2/3。G. 床面付近。
9	坏	A. 口縁部径(11.8)、器高4.0 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外—明茶褐色。F. 1/3。G. 床面付近。
10	坏	A. 口縁部径(12.0)、器高3.9、底径4.1 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外—明橙褐色。F. 1/2。G. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径(11.8)、器高3.9 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外—暗褐色。F. 1/2。G. 床面付近。

第36号住居跡（第52図）

D地点の北側に位置し、重複する第32号住居跡と第33号住居跡に切られ、第37号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、住居跡の西側半分だけであるため、本住居跡の全容は不明である。規模は、北西から南東方向が5.04m・南西から北東方向は3.74mまで測れる。壁は直線的に立ち上がり、確認面からの深さは30cmある。各壁下には壁溝が巡っているが、西側コーナー部下には



第36～39号住居跡土層説明

<第36号住居跡>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

<第37号住居跡>

- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

<第38号住居跡>

- 第6層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

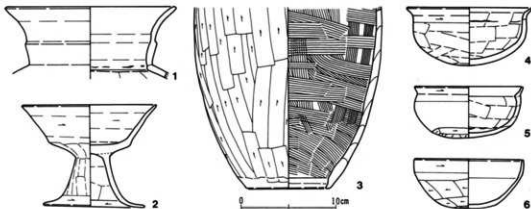
<第39号住居跡>

- 第8層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第52図 第36～39号住居跡

見られず途切れている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に堅く平坦である。床面上には一部炭化材や焼土ブロックが見られることから、本住居跡は火災により消失したものと考えられる。ピットは、1箇所検出されているが、本住居跡に伴うものか不明である。

出土遺物は、覆土中を主体に土器片が多く出土している。本住居跡に伴うものは、床面付近から出土したNo3～No6の土器で、No1の壺とNo2の高坏は覆土上面から出土しており、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。



第53図 第36号住居跡出土遺物

第36号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径(18.2) B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面とも荒れていて不明瞭。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 1/3。G. 覆土中。H. 器表面は二次焼成により荒れている。
2	高 坏	A. 口縁部径14.4、器高10.9 B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部及び脚部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明橙褐色、内一暗橙褐色。F. 2/3。G. 覆土中。
3	大形 瓶	A. 残存高19.2、底径8.8 B. 粘土経積み上げ。C. 外面ケズリ、内面ハケ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一暗褐色、内一暗茶褐色。F. 1/4。G. 床面付近。
4	碗	A. 口縁部径(13.4)、器高6.2 B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面寛ナデの後丁寧なナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 2/3。G. 覆土中。
5	碗	A. 口縁部径11.6、器高5.5 B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. はほぼ完形。G. 床面付近。H. 底部外面に黒斑あり。
6	坏	A. 口縁部径11.6、器高5.2 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一明橙褐色。F. 3/4。G. 覆土中。

第37号住居跡 (第52図)

D地点の北側に位置し、重複する第36号住居跡に切られ、第39号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、住居跡の西側の一部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、やや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは23cmある。壁下には浅い壁溝が巡っている。床面は、

ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体にやや軟弱で緩やかな起伏が見られる。

出土遺物は、土器片が少量出土しただけである。

第38号住居跡（第52図）

D地点の北側に位置し、重複する第38号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、住居跡の西側コーナー部付近だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、やや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。壁下に壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、やや軟弱である。ピットは、2箇所検出されているが、これらは住居に伴うものではなく、住居廃絶後に掘られたものである。

出土遺物は、覆土中より鬼高式土器の破片が数片出土しただけである。



第54図 第38号住居跡出土遺物

第38号住居跡出土遺物観察表

1	壁	A. 底径(7.2) B. 粘土経積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一明茶褐色、内一淡褐色。F. 1/2。G. 覆土中。
---	---	--

第39号住居跡（第52図）

D地点の北側に位置し、重複する第37号住居跡と第38号住居跡に切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の北西側コーナー部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、直線的に立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。壁下には壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、やや軟弱である。



第54図 第39号住居跡出土遺物

出土遺物は、覆土中より和泉式土器の破片が数片出土している。土器以外では覆土中より炭化した木の枝が1点検出されている。

第39号住居跡出土遺物観察表

1	高 坏	A. 口縁部径(15.8) B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 1/5。G. 覆土中。
---	-----	--

第40号住居跡（第57図）

D地点の中央部北寄りに位置し、重複する第41号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、住居の西側コーナー部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは35cmある。壁溝は、検出された壁下には見られない。床面は、全体に平坦で堅くしまっている。

出土遺物は、覆土中より土器片が数片出土しただけである。

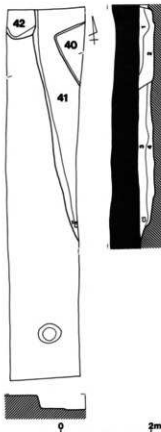
第41号住居跡（第57図）

D地点の中央部北寄りに位置し、重複する第42号住居跡を切り、第40号住居跡に切られている。調査区内で検出されたのは、住居の西側の一部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは30cmある。壁溝は見られない。床面は、全体にやや起伏が見られ軟弱である。

出土遺物は、完形の小型丸底壺（No 1）が南端の壁際覆土中より横転したような状態で出土している。



第56図 第41号
住居跡出土遺物



第57図 第40～42号住居跡

第40・41号住居跡土層説明

<第40号住居跡>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

<第41号住居跡>

- 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第41号住居跡出土遺物観察表

1	小形丸底壺	A. 口縁部径9.6、器高8.6 B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面施ナデの後ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面指ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. はほぼ完形。G. 覆土中。
---	-------	---

第42号住居跡（第57図）

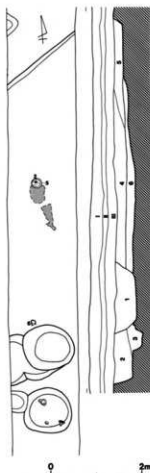
D地点の中央部北寄りに位置し、重複する第41号住居跡に切られている。調査区内で検出されたのは、住居の南西側コーナー部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは17cmある。壁溝は見られない。出土遺物は、土器片が数片出土しただけである。

第43号住居跡（第58図）

D地点の中央部に位置し、重複する第19号土壇に切られている。調査区の関係から住居跡の一部しか調査できなかったため、本住居跡の全容は不明であるが、規模は北西から南東方向が7m～8m位の比較的大形の住居跡と思われる。壁は、北西側壁が検出されており、緩やかに立ち上がっている。確認面からの深さは17cmあり、壁下には壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一

に含む暗黄褐色土(第6層)を埋め戻した貼床式で、全体に平坦で堅くしまっている。炉は、掘り込みをもたない単に床面が焼けているだけの地床炉で、住居の中央部付近に位置するものと思われる。炉の北西端には、No 2 と No 5 の高坏が逆位に重なって置かれている。

出土遺物は、覆土中を主体に土器が比較的多く出土している。



第58図 第43号住居跡

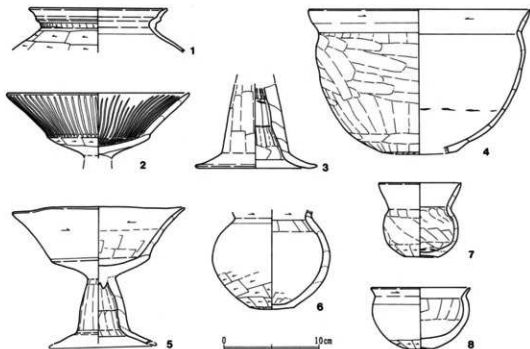
第43号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（白色粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（白色粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：黒褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第43号住居跡出土遺物観察表

1	台付甕	A. 口縁部径(14.6) B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一淡茶褐色、内一淡褐色。F. 1/4。G. 覆土中。
2	高坏	A. 口縁部径19.4 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ともナデの後細かな放射状暗文。坏部外面ナデの後ケズリ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 坏部完形。G. 床面上。
3	高坏	A. 残存高8.9、脚端部径(13.0) B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ケズリの後丁寧なナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/3。G. 覆土中。
4	大形鉢	A. 口縁部径23.6、器高15.3、底径(7.8) B. 粘土紐輪積み。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面寛ナデの後指ナデ、内面丁寧なナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 4/5。G. 覆土中。H. 外面は二次焼成を受けて荒れている。底部外面黒斑あり。



第59図 第43号住居跡出土遺物

5	高 坏	A.口縁部径18.2、残存高14.5 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面寛ナデ。坏部及び胴部外面ケズリの後丁寧なナデ、胴部内面ナデ。胴端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.坏部完形、胴部1/2。G.床面上。H.坏部内面下半にタール状の黒色付着物あり。
6	小 形 壺	A.残存高10.6、底径4.8 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.2/3。G.床面付近。
7	小形丸底甕	A.口縁部径(8.7)、器高7.9、底径3.6 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面上半指ナデ下半寛ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.2/3。G.覆土中。
8	碗	A.口縁部径(10.6)、器高6.5、底径2.6 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面丁寧なナデの後下端ケズリ、内面寛ナデの後丁寧なナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/4。G.覆土中。

第44号住居跡 (第60図)

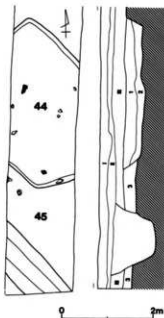
D地点の中央部に位置し、重複する第45号住居跡を切っている。住居跡の東西両コーナー部は調査区外に位置するため、本住居跡の全容は不明である。平面形は、長方形を呈しているが、南東側壁はやや張るようである。規模は、北東～南西方向が2.60m・北西～南東方向は3.16mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは40cmある。床面は、ロブロックを含む暗黄褐色色土を埋め戻した貼床式で、緩やかな起伏が見られる。

出土遺物は、覆土中より和泉式と鬼高式の土器片が少量出土しており、住居中央部の覆土中には、長さ20cmの炭化材が見られる。

第45号住居跡（第60図）

D地点の中央部に位置し、重複する第44号住居跡と第26号溝跡に切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の中央部付近にあたると思われる。壁等は調査区外に位置していると思われるため、本住居跡の全容は不明である。確認面からの深さは28cmある。床面は、ローブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に平坦でやや軟弱である。

出土遺物は、覆土中より土器片が少量出土しただけである。No 1の甕は、調査区東側壁面の外側から出土しており、本住居跡に伴う可能性が高いと考えられるものである。



第60図 第44・45号住居跡

第44・45号住居跡土層説明

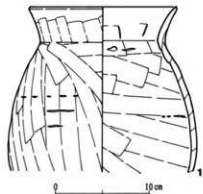
<第44号住居跡>

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

<第45号住居跡>

第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）



第61図 第45号住居跡出土遺物

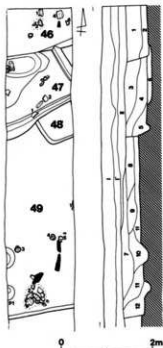
第45号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径15.6、残存高17.5 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後蓋ナデ。胴部内外面寛ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/2。G. 覆土中。
---	---	---

第46号住居跡（第62図）

D地点の南側に位置し、重複する第47号住居跡と第48号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、住居跡の南側の一部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。南側壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは47cmある。壁の向きは、ほぼN-73°-Eを向いている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に平坦で堅くしまっている。

出土遺物は、土器（No 1～No 4）と土製支脚（No 5）が覆土中から出土しているが、破片が多く完形品はない。このうちのNo 1の甕とNo 4の鉢は、床面上から出土しているが破片である。



第62図 第46～49号住居跡

第46・47・49号住居跡土層説明

<第46号住居跡>

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

<第47号住居跡>

第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第49号住居跡>

第7層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

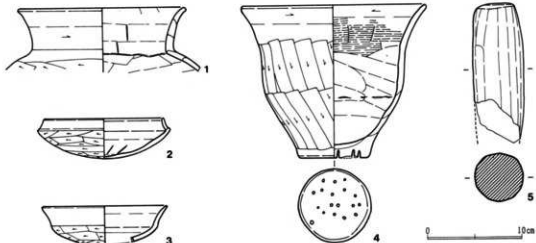
第8層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（焼土粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第10層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第11層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

第12層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第63図 第46号住居跡出土遺物

第46号住居跡出土遺物観察表

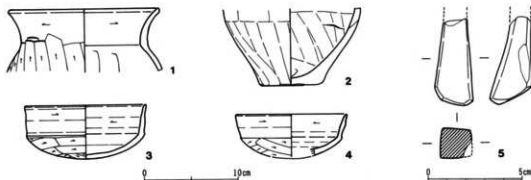
1	要	A. 口縁部径(17.8) B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 1/3。G. 床面上。
---	---	---

2	坏	A.口縁部径(12.8)、器高4.3 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面匱ナデ。D.白色粒。E.外一赤茶褐色、内一暗褐色。F.3/4。G.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(13.2)、器高(4.0) C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/4。G.覆土中。
4	鉢	A.口縁部径(19.8)、器高16.1、底径7.7 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ハケの後指ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.1/3。G.床面上。H.底部外面に刺突による多数の穴あり。外面は剥落顕著。
5	土製支脚	A.残存長14.8、幅5.2 C.外面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.3/4。G.覆土中。

第47号住居跡（第62図）

D地点の南側に位置し、重複する第46号住居跡に切られ、第48号住居跡と第49号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは住居跡の東側コーナー部付近だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは40cmある。調査区内で検出された北東側壁と南東側壁の壁下には、深さ5cm～10cm程度の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に平坦で堅くしまっている。住居内には、深さ30cmの楕円形を呈するやや規模の大きな掘り込みが検出されており、中から長さ20cmの偏平な自然石が1個出土しているが、その性格は不明である。

出土遺物は、楕円形の掘り込み内や東側コーナー部付近の覆土中より、土器(No1～No4)と砥石(No5)の破片が出土している。



第64図 第47号住居跡出土遺物

第47号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(16.0) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/4。G.覆土中。
2	甕	A.残存高8.1、底径6.8 B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ケズリの後ナデ、内面匱ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、小石。E.外一暗茶褐色、内一淡褐色。F.1/4。G.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(13.0)、器高5.7 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/3。G.掘り方内。
4	坏	A.口縁部径(11.8)、器高(4.6) C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/4。G.覆土中。
5	砥石	A.残存長4.6、最大幅2.0 C.四面とも良く磨られている。D.凝灰岩。F.約1/2。G.覆土中。

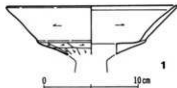
第48号住居跡（第62図）

D地点の南側に位置し、重複する第47号住居跡と第49号住居跡に切られている。調査区内で検出されたのは住居跡の南側コーナー部付近だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、深さは6cmある。床面は、全体に平坦でやや軟弱である。

出土遺物は、覆土中より高坏の坏部(No 1)が出土しただけである。

第48号住居跡出土遺物観察表

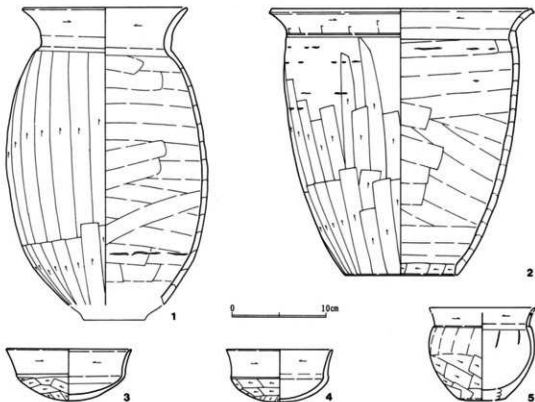
1	高 坏	A. 口縁部径18.0 B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。 D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 4/5。G. 覆土中。
---	-----	--



第65図 第48号住居跡出土遺物

第49号住居跡（第62図）

D地点の南側に位置し、重複する第47号住居跡に切れ、第48号住居跡と第51号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは住居跡の一部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、直線的に立ち上がり、深さは調査区断面で22cmを測る。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に平坦で堅くしまっている。ピットは、2箇所検出されているが、本住居跡に伴うのはP 1だけである。南側壁際に位置しているが、その性格は不明である。



第66図 第49号住居跡出土遺物

出土遺物は、住居南側の床面上からNo1の甕とNo2の大形甕及びNo3の坏が出土し、覆土中よりNo4の坏やNo5の鉢の破片や炭化材が出土している。

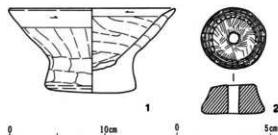
第49号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径17.4、残存高31.4 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒、小石。E.内外一淡橙褐色。F.底部欠失。G.床面上。
2	大形甕	A.口縁部径(28.0)、器高28.2、底径(12.0) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面寛ナデ、胴部外面ナデの後ケズリ、内面寛ナデ。底部穿孔内側ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/3。G.床面上。
3	坏	A.口縁部径13.2、器高5.5 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡橙褐色。F.4/5。G.床面上。
4	坏	A.口縁部径(11.2)、器高5.5 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。E.内外一明橙褐色。F.1/2。G.覆土中。
5	小形甕	A.残存高9.3、底径(4.8) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面寛ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/4。G.覆土中。

第50号住居跡 (第68図)

D地点の南側に位置し、重複する第51号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、住居跡の西側だけであるため、本住居跡の全容は不明である。規模は、南北方向が5.22m・東西方向は1.32mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは、調査区東側断面で40cmを測る。調査区内で検出された各壁の壁下には、深さ5cm程度の壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に平坦で堅くしまっている。ピットは、3箇所検出されているが、いずれも性格は不明である。

出土遺物は、床面上よりNo1の鉢とNo2の石製紡錘車が出土している。この他では、南西コーナー部の床面上に白色粘土の塊が置かれていた。



第67図 第50号住居跡出土遺物

第50号住居跡出土遺物観察表

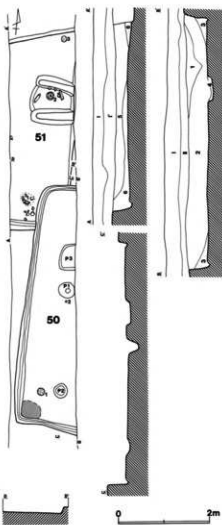
1	鉢	A.口縁部径17.6、器高8.9、底径9.6 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒、小石。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.床面上。
2	石製紡錘車	A.直径3.4、高さ1.6、重さ29g C.表裏面とも研磨。側面縦方向のケズリの後横方向の研磨。F.完形。G.床面上。H.上面に刻み状の不規則な線刻を施す。

第51号住居跡 (第68図)

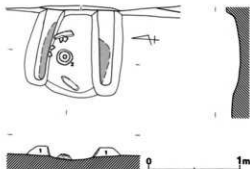
D地点の南側に位置し、重複する第49号住居跡と第50号住居跡に切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の東側の一部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。規模は、南北方向が4.26mまで、東西方向が1.65mまで測れ、主軸方位はN-95°-Eをとる。壁は、やや傾斜して

立ち上がり、確認面からの深さは32cmを測る。南側壁の壁下には深さ7cmの壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、住居中央部に比べて壁際が若干低くなっている。住居中央部は堅くしまっているが、壁際はやや軟弱である。カマドは、東側壁の中央付近に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長92cm・幅103cmを測る。袖は、ロームブロックを均一に含む暗褐色土を、壁に直接貼り付けて構築している。燃焼部は、壁を掘り込まない形態で、比較的良く焼けている。燃焼面は、床面よりも若干低く、中央部のやや北寄りにNo2の高坏が支脚として伏せられている。また、カマド内からは長さ25cm程度の扁平な自然石が2個出土しており、カマドの補強材に使われていたものかもしれない。

出土遺物は、カマド内より支脚に転用されたNo2の高坏が、南側壁際の床面上よりNo1の甕が、カマド北側の床面上よりNo3の小形甕が出土している。



第68図 第50・51号住居跡



第69図 第51号住居跡カマド

第50・51号住居跡土層説明

<第50号住居跡>

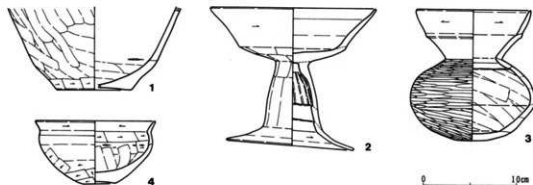
- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：黒褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

<第51号住居跡>

- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第51号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第70図 第51号住居跡出土遺物

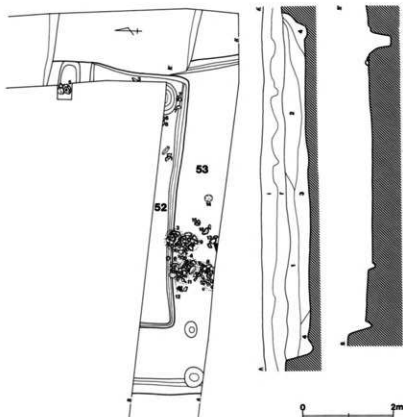
第51号住居跡出土遺物観察表

1	亮	A. 残存高8.8、底径7.8 B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデの後下端ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外—暗褐色、内—淡褐色。F. 1/2。G. 床面上。
2	高 坏	A. 口縁部径17.6、器高15.0 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。胴端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒、片岩粒。E. 内外—明茶褐色。F. 4/5。G. カマド支脚。
3	小 形 壺	A. 口縁部径(12.2)、器高13.8、底径3.6 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部及び頸部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面寛ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外—淡茶褐色。F. 4/5。G. 床面上。H. 胴部内面の全面にタール状の黒色付着物あり。
4	碗	A. 口縁部径12.7、器高6.7、底径3.3 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後上半ナデ、内面ケズリの後寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外—茶褐色。F. 2/3。G. 覆土中。

第52号住居跡（第71図）

D地点の南端に位置し、重複する第53号住居跡に住居跡の上面を、住居跡の北東側を氾濫土のような砂利層によって切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の南東側の一部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。平面形は、方形もしくは長方形を呈するものと思われ、規模は東西方向が5.40m・南北方向は3.00mまで測れる。主軸方位は、N-96°-Eをとる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、深さは12cmある。西側壁から南側壁の壁下には、深さ5cmの壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に平坦であるが、壁際のためかやや軟弱である。ピットは、南東側コーナー部で1箇所検出されている。調査区の関係からその全容は不明であるが、その位置や形態から貯蔵穴と考えられる。規模は、東西方向が70cmまで測れ、深さは50cmある。カマドは、東側壁の中央付近に、壁に対してほぼ直角に付設されている。袖は、ロームブロックとローム粒子を均一に含む暗褐色土(カマド第1層)を、壁に直接貼り付けて構築している。然焼部は、壁を掘り込まない形態で、あまり焼けていない。然焼面は、床面とほぼ同じで平坦である。中央部には、No 5の高坏が支脚として伏せられている。

出土遺物は、カマド内や貯蔵穴周辺の床面上より土器が出土している。土器以外では、南側壁際の覆土中より長さ23cmの棒状の自然石が1個出土している。



第71図 第52・53号住居跡

第52号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

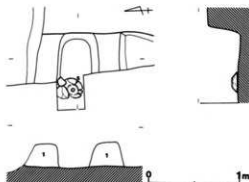
第53号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（小礫・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

第2層：黒褐色土層（小石を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：黒褐色土層（小石を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：黒褐色土層（小石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

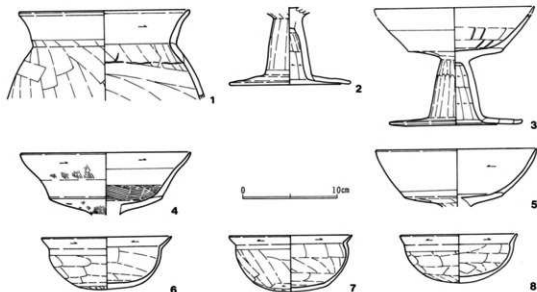


第72図 第52号住居跡カマド



第52号住居跡出土遺物観察表

1	変	A. 口縁部径(18.0) B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面指ナデ。D. 赤色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/4。G. 覆土中。
2	高 坏	A. 残存高8.1、脚端部径12.8 B. 粘土経積み上げ。C. 脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一茶褐色、内一暗茶褐色。F. 脚部のみ。G. カマド内。



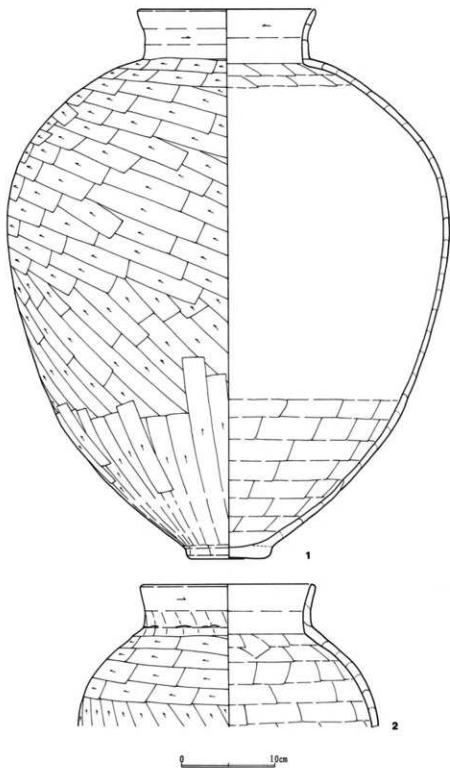
第73図 第52号住居跡出土遺物

3	高 坏	A. 残存高11.6、脚端部径14.0 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面萺ナデの後ヨコナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 3/4。G. 床面上。
4	高 坏	A. 口縁部径18.0 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。坏部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 3/4。G. カマド内。H. 内面下半にタール状の黒色付着物あり。
5	高 坏	A. 口縁部径17.0 B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一淡茶褐色、内一明茶褐色。F. 坏部のみ。G. カマド支脚。H. 内面タール状の黒色付着物あり。
6	碗	A. 口縁部径13.8、器高5.5 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 3/4。G. 床面上。
7	碗	A. 口縁部径13.0、器高5.9 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 2/3。G. 床面上。
8	碗	A. 口縁部径12.4、器高5.0 C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 4/5。G. 床面上。

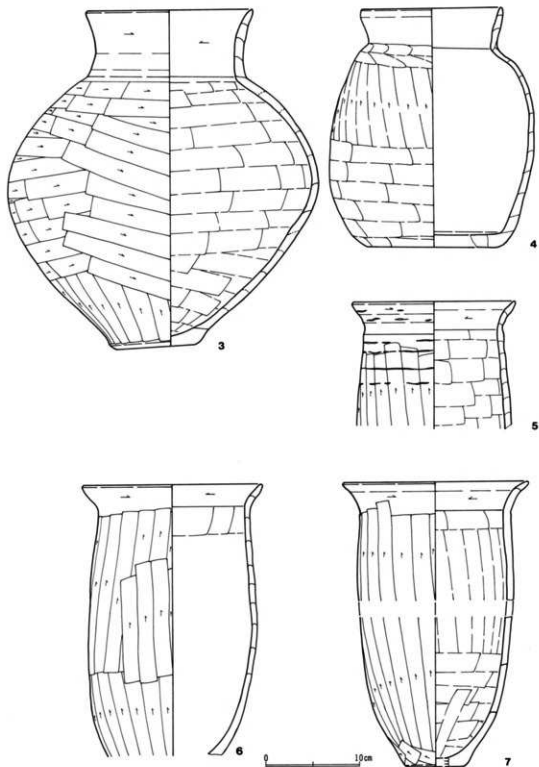
第53号住居跡（第71図）

D地点の南端に位置し、重複する第52号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、住居跡の一部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。規模は、東西方向が7.14mを測り、比較的大形の住居跡のようである。壁は、比較的緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは46cmある。東西両側の壁下には、深さ10cm前後の壁溝が見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に堅くしまっており、やや起伏が見られる。

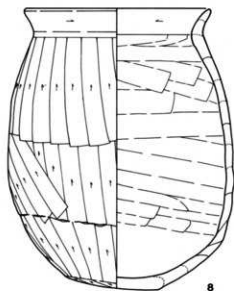
出土遺物は、住居中央部の覆土中より多くの土器がまとまって出土しており、住居廃絶後の覆土中に投棄されたものと考えられる。



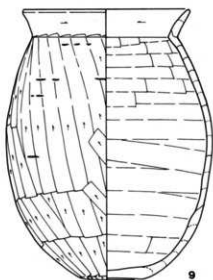
第74図 第53号住居跡出土遺物 (1)



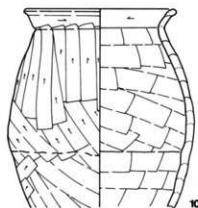
第75图 第53号住居跡出土遺物 (2)



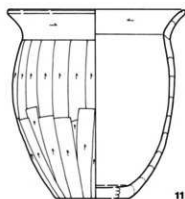
8



9



10



11



12



13



14



15



16



第76図 第53号住居跡出土遺物 (3)

第53号住居跡出土土物観察表

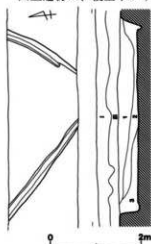
1	大形短頸壺	A.口縁部径18.8、器高(58.0)、底径8.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後下端部ナデ、内面寛ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一淡茶褐色。F.1/2。G.覆土中。H.上半と下半は接合しない。器形は図上復元。
2	短頸壺	A.口縁部径(18.6) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/4。G.覆土中。
3	壺	A.口縁部径17.6、器高35.7、底径9.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.3/4。G.覆土中。H.外面に黒斑あり。
4	甕	A.口縁部径14.8、器高25.3、底径(13.7) B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.2/3。G.覆土中。H.底部は焼成後大きく円形に抜けており、甕として転用された可能性もある。
5	甕	A.口縁部径(17.2)、残存高13.4 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面寛ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.1/2。G.覆土中。
6	甕	A.口縁部径19.0、残存高28.6 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丁字ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一茶褐色。F.2/3。G.覆土中。
7	甕	A.口縁部径(19.6)、器高(30.0)、底径6.6 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外一淡茶褐色、内一茶褐色。F.1/3。G.覆土中。H.上半と下半は接合しない。器形は図上復元。
8	甕	A.口縁部径19.6、器高29.7、底径9.9 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。
9	甕	A.口縁部径17.6、器高28.5、底径6.1 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。H.胴部外面中に煤の付着あり。
10	甕	A.口縁部径16.0、残存高20.9 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面寛ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.3/4。G.覆土中。
11	小形甕	A.口縁部径(18.8)、器高19.9、底径7.8 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丁字ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一暗褐色。F.2/3。G.覆土中。
12	坏	A.口縁部径14.0、器高3.9 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.完形。G.覆土中。
13	坏	A.口縁部径13.6、器高4.0 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒、片岩粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。
14	坏	A.口縁部径12.8、器高3.8 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。
15	坏	A.口縁部径12.6、器高3.7 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。
16	坏	A.口縁部径13.0、器高3.5 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。

第54号住居跡(第77図)

D地点の南端部に位置し、東側には第53号住居跡が近接している。調査区内で検出されたのは、住居跡の南側の一部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは37cmある。壁下には深さ5cm～10cmの壁溝が見られるが、南東側

壁下の壁溝は途切れている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に平坦で堅くしまっている。

出土遺物は、覆土中より鬼高式土器の破片が少量出土したただけである。



第77図 第54号住居跡

第54号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（小石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第78図 第54号住居跡
出土遺物

第54号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(12.0)、器高4.3 C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。 E.内外一暗茶褐色。F.1/3。G.覆土中。
---	---	---

第55号住居跡（第79図）

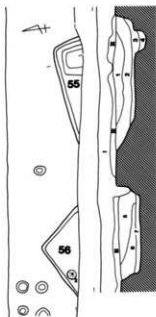
D地点の南端部西側に位置し、西側には第56号住居跡が近接している。調査区内で検出されたのは、住居跡の北東側コーナー部付近だけであるため、本住居跡の全容は不明である。平面形は不明であるが、北東側コーナーはほぼ直角を呈している。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは35cmある。北側壁は、N-81°-Eを向いている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に平坦で堅くしまっている。北東側コーナー部には長方形ぎみのピットがあり、貯蔵穴の可能性も考えられる。

出土遺物は、覆土中より鬼高式土器の破片が数片出土したただけである。

第56号住居跡（第79図）

D地点の南端部西側に位置し、東側には第55号住居跡が近接している。調査区内で検出されたのは、住居跡の北側コーナー部付近だけであるため、本住居跡の全容は不明である。平面形は不明であるが、北側コーナーはほぼ直角を呈している。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは34cmある。北西側壁は、N-60°-Eを向いている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗褐色土（第7層）を埋め戻した貼床式で、全体に平坦で堅くしまっている。

出土遺物は、和泉式土器が少量出土したただけである。No1の壺は、覆土中から出土した破片で、No2の高坏は、北西側壁際の床面上に伏せた状態で出土している。



第79図 第55・56号住居跡

第55・56号住居跡土層説明

<第55号住居跡>

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（炭化粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第56号住居跡>

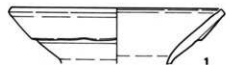
第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第79図 第55・56号住居跡



第80図 第56号住居跡出土遺物



第56号住居跡出土遺物観察表

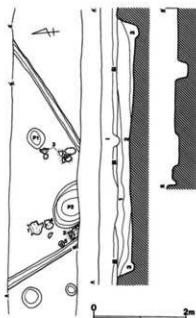
1	壺	A. 口縁部径(23.0) B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一暗赤褐色。F. 1/4。G. 覆土中。
2	高 坏	A. 口縁部径16.4 B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後暗文、内面寛ナデ。坏部外面寛ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 坏部のみ。G. 床面上。

第57号住居跡（第81図）

D地点の南端部西側に位置し、東側には第56号住居跡がある。調査区内で検出されたのは、住居跡の南側の一部だけであるため、本住居跡の全容は不明である。平面形は、方形もしくは長方形を呈するものと思われ、規模は北西から南東方向が4.50mまで、北東から南西方向が3.00mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは調査区北側断面で34cmある。南東側壁は、N-65°-Eを向いている。壁下には、深さ5cm前後の壁溝が見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、住居中央部に比べて周辺部が若干低くなっている。ピットは、2箇所検出されている。P1は、40cm×38cmの不整形円形を呈し、深さは28cmあるが、

その性格は不明である。P2は、南側コーナー部に位置する規模の大きなもので、貯蔵穴と考えられる。深さは50cmあり、2段に掘り込まれている。

出土遺物は、南側コーナー部の貯蔵穴周辺の床面上から、甕(No1、2)・大形鉢(No3)・高坏(No4、5)等の土器が出土している。この他では、南東側壁際の床面上より長さ24cmの比較的大きな自然石が1個出土している。



第81図 第57号住居跡

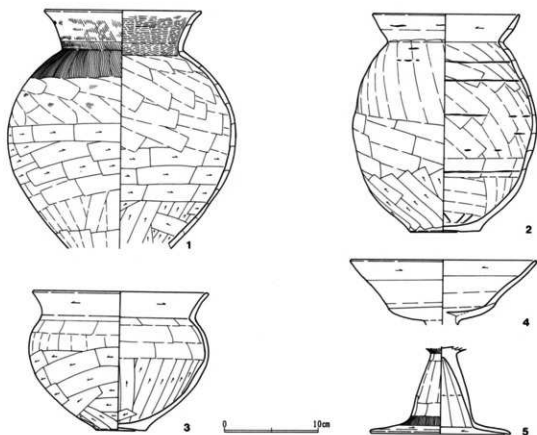
第57号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第57号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径16.6、残存高25.2 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後ナデ中位ケズリ、内面下半ケズリ上半麓ナデ。D.赤色粒、白色粒、小石。E.外一暗褐色、内一茶褐色。F.1/3。G.床面上。
2	甕	A.口縁部径15.4、器高23.0、底径7.4 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面麓ナデの後下半ケズリ、内面麓ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.外一淡茶褐色、内一暗褐色。F.ほぼ完形。G.床面上。
3	大形鉢	A.口縁部径(18.6)、器高14.6、底径5.4 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ケズリの後上半ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。G.床面上。H.外面に黒斑あり。
4	高坏	A.口縁部径19.6 B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.4/5。G.床面上。
5	高坏	A.残存高9.2、脚端部径14.8 B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ハケの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一黒褐色、内一淡登褐色。F.脚部のみ。G.床面上。



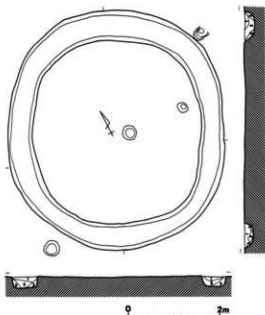
第82図 第57号住居跡出土遺物

2 円形周溝遺構

第1号円形周溝遺構（第83図）

A地点の中央部に位置し、南側には第1号住居跡が、北側には第2号住居跡が、また北東側には未調査の住居跡が近接している。平面形は、円形を呈するが正円ではなく、胴張隅丸方形のような形態に近いようにも思える。規模は、北東～南西方向が5.12m・北西～南東方向が4.62mあり、周溝内法は北東～南西方向が3.97m・北西～南東方向が3.60mを測る。周溝は、比較的均一な形態で、途切れずに全周している。幅は、50cm～65cmを測り、確認面からの深さは20cmある。壁は直線的にやや傾斜して立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、自然に埋没したようであるが、上層の第1層中には微量ながら炭化粒子が見られる。また、本遺構の内外には、類似した形態のビットが多く見られるが、本遺構と直接関係するものか不明である。

出土遺物は、周溝の覆土中より和泉式土器と鬼高式土器の破片が少量出土しただけである。



第83図 第1号円形周溝遺構

第1号円形周溝遺構土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）



3 土 壌

第1号土壌（第84図）

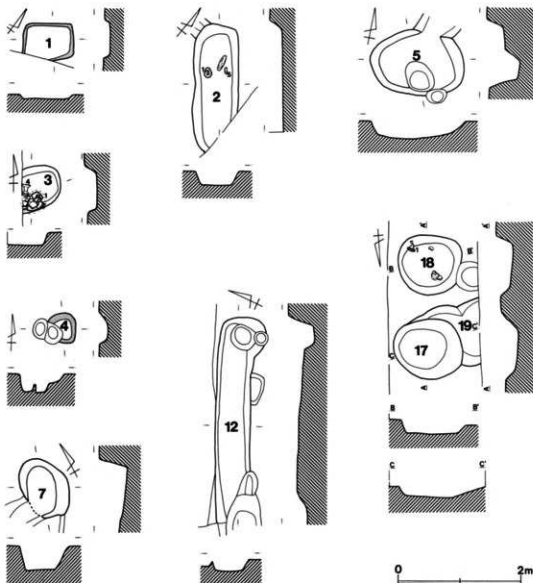
A地点の中央部に位置し、重複する第2号住居跡を切っている。平面形は、80cm×60cmの長方形を呈し、確認面からの深さは12cmある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、壁面はすべて焼けて赤色化している。底面は、平坦で水平をなし、全面に厚さ5mm程度の炭化粒子が薄く貼り付いている。遺物は何も出土しなかったが、覆土中にB軽石を均一に含むことから、本土壌は中世の所産と考えられる。本土壌は、その形態や覆土の状態など、B地点の第11号土壌（恋河内1996）と極めて類似している。

第2号土壌（第84図）

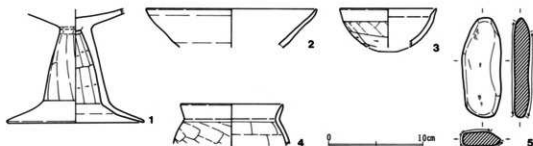
A地点の中央部に位置し、北側には第3号土壌が近接している。平面形は、204cm×62cmの北西側と南東側の両壁が丸みの強い超長方形の形態を呈している。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは22cmある。底面は、平坦で水平をなしている。覆土は、ローム粒子やロームブロックを微量含む暗褐色土を主体としている。出土遺物は、覆土中より土器の破片（第85図No.1～4）と砥石（No.5）出土している。この他には、覆土中より長さ25cmの棒状の自然石が1個出土している。

第2号土壌出土遺物観察表

1	高	坏	A. 残存高12.0、脚端部径14.4 B. 粘土経積み上げ。C. 坏部内外面ナデ。脚部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外—淡橙褐色。F. 脚部のみ。G. 覆土中。
2	高	坏	A. 口縁部径(18.0) B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外—淡茶褐色。F. 1/4。G. 覆土中。



第84图 土 横



第85图 第2号土横出土遗物

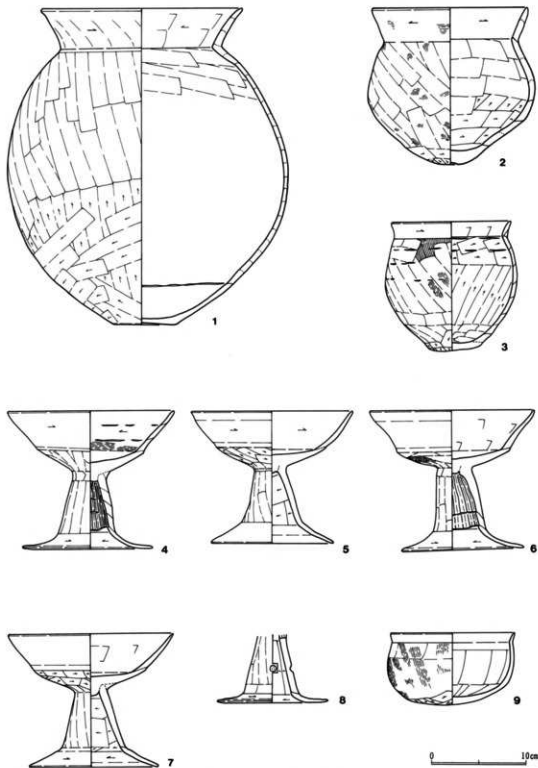
3	碗	A.口縁部径(10.2) C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一赤褐色。F.1/4。G.覆土中。
4	小形甕	A.口縁部径(10.8) B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/4。G.覆土中。
5	砥石	A.全長10.5、幅4.1、厚さ1.5、重さ161g C.表表面及び側面の一部は良く磨られている。F.完形。G.覆土中。

第3号土坑（第84図）

A地点の中央部に位置し、南側には第2号土坑が、北東側には第2号溝跡が近接している。調査区内で検出されたのは、土坑の東側半分だけであるため、本土坑の全容は不明である。規模は、南北方向が62cm・東西方向は72cmまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。底面は、平坦で水平をなしている。出土遺物は、完形に近い土器が比較的多く出土している。これらは、土坑南側の底面上に複数の高坏(No 4～8)と小形甕(No 2・No 3)及び碗(No 9)が折り重なって密集し、その上に大形の甕(No 1)が乗った状態で出土している。

第3号土坑出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径21.2、器高33.5、底径6.8 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面施ナデの後ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後上半施ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.4/5。G.覆土中。H.胴部外面に黒斑あり。
2	小形甕	A.口縁部径16.4、器高16.6 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ナデ。胴部外面ハケの後ナデ、内面ケズリの後上半施ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.2/3。G.底面付近。H.器表面は二次焼成により荒れている。
3	小形甕	A.口縁部径12.5、器高13.6、底径5.4 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。胴部外面ハケの後丁寧なナデ、内面ケズリの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.底面付近。H.外面に黒斑あり。
4	高坏	A.口縁部径17.6、器高14.5 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面シボリ目。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。
5	高坏	A.口縁部径17.0、器高14.0 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.ほぼ完形。G.床面付近。H.坏底部に灰点状剥落顕著。
6	高坏	A.口縁部径17.4、器高14.9 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。坏部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面シボリ目。脚端部内外面ヨコナデ。D.片岩粒、白色粒。E.外一茶褐色、内一淡褐色。F.坏部完形、脚端部1/2欠損。G.底面付近。
7	高坏	A.口縁部径17.4、器高14.1 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.ほぼ完形。G.床面付近。H.口縁部外面に黒斑あり。
8	高坏	A.残存高7.3、脚端部径11.6 B.粘土経積み上げ。C.脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.片岩粒、赤色粒。E.内外一茶褐色。F.脚部のみ。G.床面付近。H.脚部外面中位に焼成前の穿孔痕1箇所あり。
9	碗	A.口縁部径13.0、器高7.6 B.粘土経積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.3/4。G.床面付近。



第86図 第3号土坑出土遺物

第4号土壌（第84図）

A地点の南側に位置し、南西側には第5号住居跡が近接している。土壌の西側をビットによって切られているため、全容は不明である。平面形は、コーナー部の丸みが強い隅丸方形のような形態を呈し、規模は南北方向が48cm・東西方向は44cmまで測れる。壁は、比較的緩やかに立ち上がり、壁面はすべて焼けて赤色化している。底面は、やや丸みをもち、確認面からの深さは16cmある。出土遺物はなく、時期は不明である。

第5号土壌（第84図）

A地点の中央部北寄りに位置し、北西側には第12号土壌とB地点の第13号土壌（恋河内1996）が近接している。土壌北側を後世の掘乱に、中央南側をB地点の第1号掘立柱建物跡（恋河内1996）の柱穴に切られている。平面形は、1.50m×1.04mの楕円形に近い形態を呈している。壁は、緩やかに立ち上がる。底面は、広く丸みをもち、確認面からの深さは28cmある。遺物は何も出土していないが、覆土の状態より古代の所産と推測される。

第7号土壌（第84図）

A地点の南端部に位置し、北側には第3号住居跡が近接している。土壌の西側をビットによって切られているため、全容は不明である。平面形は、1.17m×0.76mの楕円形に近い形態を呈している。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは44cmある。底面は、平坦であるが北側に向かって傾斜している。覆土は、ローム粒子を微量含む黒褐色土を主体としている。遺物は何も出土していないが、覆土の状態より古代の所産と推測される。

第12号土壌（第84図）

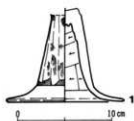
A地点の中央部北寄りに位置し、重複するB地点の第13号土壌を切り、西端部を第9号住居跡に、東端部をB地点の第1号掘立柱建物跡に切られている。土壌北側を第9号溝跡と接し、それと平行している。形態は、細長い溝状を呈しており、区画溝的なものである可能性もある。規模は南北方向が72cmあり、東西方向は3.10mまで測れるが、西端部の底面はやや上がってきており、おそらく3.20m位になると思われる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。底面は、若干起伏があり東側に向かってやや低くなっている。覆土は、ローム粒子と焼土粒子を微量含む黒褐色土を主体としている。遺物は何も出土していないが、遺構の重複関係や覆土の状態より、古代の所産と推測される。

第17号土壌（第84図）

D地点の中央部に位置し、重複する第19号土壌に切られている。平面形は、1.10m×0.96mの楕円形に近い形態を呈し、深さは25cmある。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦であるがやや南側に向かって低くなっている。覆土は、ローム粒子やロームブロックを微量含む暗褐色土を主体としている。遺物は、和泉式土器の破片が数片出土しただけである。

第18号土壌 (第84図)

D地点の中央部に位置し、北側には第17号土壌と第43号住居跡が、南側には第44号住居跡が近接している。平面形は、1.02m×0.96mの楕円形に近い形態を呈し、深さは28cmある。壁は直線的に傾斜して立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、ローム粒子や焼土粒子を微量含む暗褐色土を主体としている。出土遺物は、覆土中より和泉式土器の破片が少量出土しただけである。本土壌は、その位置や形態より、第43号住居跡の貯蔵穴の可能性も推測される。



第87図 第18号土壌出土遺物

第18号土壌出土遺物観察表

1	高 坏	A. 残存高9.9、脚端部径(12.4) B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ハケの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外一茶褐色。F. 3/4。G. 覆土中。
---	-----	--

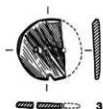
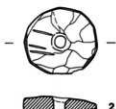
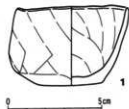
第19号土壌 (第84図)

D地点の中央部に位置し、重複する第43号住居跡と第17号土壌を切っている。調査区内で検出されたのは、土壌の東側半分だけであるため、本土壌の全容は不明である。平面形は、円形もしくは楕円形に近い形態をているものと思われる。規模は、南北方向が1.04m・東西方向は1.14mまで測れる。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦であるが東側に向かってやや傾斜している。覆土は、白色粒子・ローム粒子・焼土粒子を含む暗褐色土(第58図第1層)を主体としている。遺物は何も出土していないが、覆土の状態より中世以前の所産と考えられる。

4 溝 跡

第1号溝跡 (第89図)

A地点の中央部に位置し、南側には第2号住居跡が近接し、北側には第2号土壌がある。流路は、北東方向にとり、南側の第2号住居跡の主軸方向とほぼ一致した向きである。形態は、上幅が45cm～50cmの比較的均一な形態を呈し、確認面からの深さは18cmある。壁は直線的にやや傾斜して立ち上がり、底面は平坦である。出土遺物は、覆土中よりミニチュア土器(No1)・石製紡錘車(No2)・有孔円盤(No3)などが出土している。



第88図 第1号溝跡出土遺物

第1号溝跡出土遺物観察表

1	ミニチュア	A.口縁部径6.0、器高4.1、底径3.6 B.手捏ね成形。C.外面ナデ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.ほぼ完形。G.覆土中。
2	石製紡錘車	A.直径3.5～4.0、高さ0.8、重さ18g C.表面は剥落顕著。裏面及び側面研磨。D.片岩。F.ほぼ完形。G.覆土中。H.表面に線刻状のキズあり。
3	石製模造品 (有孔円盤)	A.長さ3.3、残存幅2.6、厚さ0.3 C.表裏面及び側面研磨。D.片岩。F.2/3。G.覆土中。H.穿孔は2箇所。表裏面及び側面は鉄分が付着していずれも茶褐色化している。

第2号溝跡（第89図）

A地点の中央部に位置し、南西側には第3号土壌が近接し、北側には第3号溝跡がある。流路は、北西方向にとり、その延長にあたるB地点西側の第11号溝跡（窓河内1996）と同一の溝と考えられる。形態は、上幅が1.16m～1.26mの比較的均一な形態を呈し、確認面からの深さは52cmある。壁は直線的にやや傾斜して立ち上がり、底面は広く平坦である。出土遺物は、覆土中より和泉式土器と鬼高式土器の破片が少量出土しただけである。本溝跡は、恒常的に水が流れていたような痕跡はなく、等高線の方向と平行するような流路をとっていることから、排水を目的とした水路の可能性が推測される。

第3号溝跡（第89図）

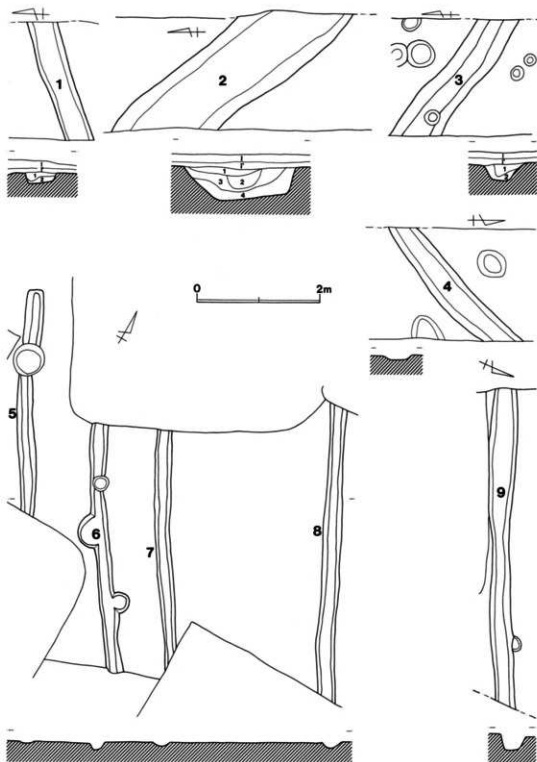
A地点の中央部に位置し、南側には第2号溝跡が、北側には第7号住居跡がある。流路は、ほぼ北西方向にとるが、若干蛇行きみである。形態は、上幅が60cm～65cmの比較的均一な形態を呈し、確認面からの深さは26cmある。壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、底面は平坦である。遺物は何も出土していないが、覆土の状態より中世以前の所産と推測される。

第4号溝跡（第89図）

A地点の中央部に位置し、南側には第7号住居跡が、北側には第8号住居跡が近接している。流路は、北東方向にとっているが、その延長にあたるB地点では検出されていない。形態は、上幅が45cm～52cmの比較的均一な形態を呈し、確認面からの深さは5cmある。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。遺物は、土器片が数片出土しているが、時期は不明である。

第5～8号溝跡（第89図）

A地点の中央部北寄りに位置する。溝跡の北側を第9号住居跡とB地点の第13号土壌に、南側を第8号住居跡に切られている。本溝群は、その形態や覆土が類似し、いずれも北西方向に向いて一定の間隔で平行しており、同一時期と考えられるものである。第5号溝跡は、北側が途切れており、第6～8号溝跡もその延長にあたる第9号住居跡の北側で検出されていないことから、第5号溝跡と同様に途切れている可能性が高い。形態は、いずれも上幅が25cm～30cmの均一で直線的な形態を呈している。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは5cm～10cmと比較的浅い。底面は、丸みを持ち、やや凹凸が見られる。覆土は、ローム粒子と炭化粒子を微量含む暗褐色土を主体にし



第89図 溝 跡 (1)

第1号溝跡土層説明

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・鉄斑・白色粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（鉄斑を多量に、白色粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2号溝跡土層説明

第1層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に、マンガン塊・鉄斑・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ローム粒子・鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3号溝跡土層説明

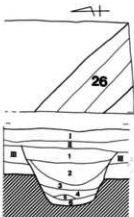
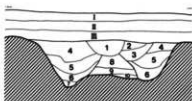
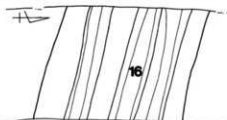
第1層：黒褐色土層（ローム粒子・白色粒子・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、鉄斑・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第16号溝跡土層説明

第1層：暗茶褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒茶褐色土層（鉄斑・マンガン塊・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第90図 溝 跡 (2)

第3層：暗茶褐色土層（鉄斑・小石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗茶褐色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロック・小石を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗灰色土層（鉄斑・小石を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

第7層：暗灰色土層（鉄斑・小石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

第8層：暗灰褐色土層（鉄斑・小石を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：暗灰色土層（小石・鉄斑を多量含む。粘性・しまりともない。）

第10層：茶褐色土層（鉄斑・マンガン塊を多量に含む。粘性・しまりともない。）

第26号溝跡土層説明

第1層：淡灰褐色土層（A軽石・B軽石を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：淡灰褐色土層（A軽石・B軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、B軽石を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：黒色土層（細砂を主体に、小石を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第5層：茶褐色土層（細砂を多量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：暗褐色土層（細砂を主体に、ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

ている。出土遺物は、第5・6・8号溝跡の覆土中より和泉式土器と鬼高式土器の破片が少量出土しただけである。時期は、遺構の重複関係や出土遺物から古墳時代後期初頭頃の所産と考えられる。本溝群は、その形態や配列から畝状遺構に類似しているが、明細は不明であり検討を要する。

第9号溝跡（第89図）

A地点の中央部北寄りに位置し、南側を第12号土坑と接し、西側を第9号住居跡に切られている。本溝跡は、ほぼ北西方向に向いており、溝の東側はそのまま調査区外に延びているため不明であるが、西側は第9号住居跡の西側で検出されていないことから、途切れている可能性が高い。形態は、上幅が32cm～48cmの比較的均一で直線的である。壁は直線的にやや傾斜して立ち上がり、底面は平坦である。確認面からの深さは24cmある。覆土は、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む暗褐色土を主体にしている。出土遺物は、覆土中より和泉式土器と鬼高式土器の破片が少量出土しただけである。時期は、遺構の重複関係や出土遺物から古墳時代後期の所産と考えられる。本溝跡は、第5～8号溝群とほぼ直角をなし、本溝跡付近でそれらの溝群が途切れると推測されることから、第5～8号溝群と一体をなす区画的性格の溝である可能性も考えられる。

第16号溝跡（第90図）

C地点の南側に位置し、北側には第28号住居跡がある。流路は、その西側の延長にあたるB地点のⅢ区西端でも同一の溝跡が検出されている（恋河内1996）ことから、ほぼ北西方向～南東方向に向いて直線的な流路をとっていたことが推測され、概ね地形の等高線に平行している。本溝跡は、同一流路による4回の掘り返しが認められる。最初の溝跡（第8～10層）は、その形態は不明であるが、確認面からの深さが60cmあり、底面が広い平坦面をなす比較的規模の大きな溝であったようである。2回目に掘り返された溝（第4～7層）は、上幅1.20m～1.50m、深さ65cm～78cmの断面「V」字状の狭い底面をもつ同一形態の溝が、2条併走する形態をとっている。この併走する2条の溝が埋没した後は、ほぼ同一流路上に小規模で浅い溝が2回掘り返されている（第1～3層）。最初の溝と2回目に掘り返された2条の併走する溝は、覆土下半に小石や細砂を顕著に含み、溝底面には鉄分の沈殿層が見られることから、水が恒常的に流れていたことが伺える。その流路が、地形の等高線に平行する方向をとっていることから、用水の機能をもった水路と考えられる。出土遺物は、C地点では鬼高式土器の破片が少量出土しただけであるが、B地点では比較的多く出土している。本溝跡の時期は、出土遺物より古墳時代後期の所産と考えられる。

第26号溝跡（第90図）

D地点の中央部に位置し、重複する第45号住居跡を切っている。流路は、その北西側延長にあたる北側の遺構確認箇所でも同一の溝跡が確認されており、北西方向に向かって若干蛇行した流路をとっている。形態は、上幅1.55m・深さ95cmの断面逆台形の形態を呈している。覆土下半は細砂が主体をなしており、水路として機能していたことが推測される。本溝跡の時期は、覆土上半にA軽石を含むことから、近世以降の所産と考えられる。